

別紙出題号
譯文

譯文
スバラスカヤ區 第五十二番ニ事
務所ツ有テ下記ノ本職タル聖彼得堡
市公証人

第一

千九百七年六月十四日職ノ事務所ニ出頭
シタルスバラスカヤ區 フォンタナカ河岸第
四十五番居住人 後陸軍大佐 ヤコフ、フエ
ホドロウイ、ルビロフ及ヒ、ハビロフスク市商人
紀鳳台、依頼ニヨリ 聖彼得堡市モウカ
河岸第八十一番居住人 米國臣民、ウイリヤ、
エドアルド、ウイリヤ、スミットニ在リテ

在獨日本公使館用

ノフ及ヒ紀鳳台ヨリ、申出ツ書面ヲ以テ
通知シタルコトヲ証ス

公証人規則ニ基キ拙者共ノ名ヲ以テ
彼得堡市モウカ河岸第八十一番居
住人國臣民、ウイリヤ、エツアルド、ウイリヤ、
スミットニ在リテ通知セラレタリ

貴殿及ヒ貴殿代理者ノ諸語並ニ
又、エツアルド、ウイリヤ、スミット、
ハ千九百七年六月滿洲樺太坑採掘

ニ關シテ極東森林會社ニ屬スル
諸權利ヲ獲得セラレタルコトヲ知悉
而シテ諸權利ニ素ト陸軍中佐、マド

リ、トフ、拙者共陸軍大佐、ルビロフ

及商人紀鳳台ト間ニ締結シタル契約
書ニ千九百三十四年三月一日旅順口ニ於テ
公證人代理ヲテ五ノツブエキルノ面
前ニ於テシテドリトフニ氏ノ重名ヲシタルニ
テ前記森林會社ニ移轉シタルノ
事

前記契約書第五項ニ基キ括者
共ニ本書面ニ受領後一週間以内
ニ左記ノ件々ニ依テ履行成度迄為
及請示セヨ

一 旅順口坑採掘ノ權利獲得ニ關シ
貴殿トシテ五ノツブエキルノ
間ニ締結セラルル契約書ノ証印付
在獨日本公使館用
騰本ヲ括者共ノ費用ヲ以テ送付
事

二 本年六月一日ニ於ケル事業ノ收支計
算表ニ其後支計算ナキ場合ニ
是迄ノ收支計算表及ヒ貴殿カ森林
會社ヨリ出資坑採掘權ヲ獲得セ
ラレタル當日ノ收支計算表ヲ送付
事

三 何時採掘事業ヲ中止セリ何時事
業再興ノ手段ヲ執リテモヤ若クハ執
ラズニ御計劃ナルヲ御通知事

前記書類及通知書ハ公證人
ウエニ

ナグールズキレツ経テ御通知成候且ツ
出者共ハ本林會社カ格項炭坑株
堀ノ格利ヲ出者共ニ通告共又出者
共ノ承諾ナリ貴殿ニ讓渡シタルコト
合法ナルヤ否ヤハ之ヲ論争スルノ權
利ヲ留保シ置リ各貴殿ニ通告ス
ルヲ義務ナリトモ認メ御首

ウエ、エ、スミット、回答並ニ同氏ヨリ受領セシ
契約書ノ謄本及ヒ事業ノ收支計算
ハ出者共ノ内心ビレフニ清文付成
候又出者共ノ費用ニテ契約書ノ謄
本付謄本ノ調製ニ要スル費用ヲ

在獨日本公使館用

不之ヨリ成ニ是は拂成及差シスミット
成カ出者共ヨリ回答ノ件、對シ或ハ
其或ル部分ニ對シ回答ヲ拒絶シ
タル場合ニ出者共カ回答ノ為ニ與
タル一週間ノ期限経過後之ニ関スル
正式ノ詔明書及ヒ本書面ニ詔明付
謄本ヲ出者共ニ送付成候成及

千九百零六年十月十四日

聖彼得堡、フオタルカ河、河野也十五番

退役陸軍大佐、ヤコフ、フエオ、ロ、キ、ル、コ、ラ

ハ、ロ、フ、ス、ク、市、商人、記、鳳、台

第ニ

前記書面ハ之ヲ「ス」ト「交」シ「月」成「リ」
回各ニ接シタルコトヲ証明ス

本年六月十四日付第五四号ノ貴信ニ関シ
午九百六十年七月拙者カ「極東」
林會社ニ屬スル「樺」
利ヲ獲得シタル事「實」ナルコト及ヒ「極東」
至極東「極東」林會社ト拙者トノ間ニ於ケル
契約書ノ「本」義ハ「該」契約カ「專ラ」
拙者共ニ「關係」シ拙者共ノ「商業上」
「秘密」タルモノニシテ「邊」
及「商人」
「且」ツ「該」契約ハ「ルビ」
「何」等ノ「通知」若クハ「其」承諾ヲ要セス

在獨日本公使館用

レテ歸結シ得ヘカリシモノナラハ「ルビ」
ト「能」鳳「台」氏ニ「通」知「ス」
此「依」物「也」

午九百三十二年「於」ケル「ア」
ト「ルビ」
「拙」者「於」テ「承」知「該」
「收」支「計」算「書」ハ「所」存「在」
前記諸權利ヲ獲得シタルコトヲ「拙」者「若」
ク「拙」者ノ「代」表「者」ニ「接」
何等「經」營「ヲ」シタルコトナク「拙」者ハ「其」
利ヲ「現」實ニ「ス」ルカ「為」
情ニ「應」ジ「相」當「たる」
合衆國臣民

本証明書は退後陸軍大佐「ヤコフ、五ノドロウ」
ルビノフ、文付ス

千九百七年六月廿三日

登記番号ノ第「四三二〇号」

公証人

ウエ、ナゲルスキー

印

下ニ記名セル本職「聖彼得堡市公証人」

ワレリアン、エツアルドリウイ、グレフス、代理「ウラゲ」

ミル、イワリノウキ、カラリ、ハ、本職「カザンスカヤ」

区「子フスキー」通第「二十四番」グレフス、事務

所ニ於テ「セテルブルガスカヤ」区「アレクサンドロフスキー」

通第「十三番」居住「デドストウ」テリメイ、スター

トスキー、ソウストニツク「アレクサンドル、ガオルギエウ」

グロトモフヨリ本職ニ提示セル原本ト相違

ナキコトヲ証明ス

本職カ原本トハ賸本トツ照合シタル旨改訂

附記「塗抹字」其他何等特異ノ点ナキ

原本ニ收入印紙「一面二十五号」貼付シマリ

千九百七年十一月廿六日

登記番号「第「八二〇号」

公証人代理「カラリ」

印

別紙
譯文

譯文

清國政府より撫順炭坑會社に許與シタル
石炭其他諸礦採掘ノ權ヲ三月十一日陸
軍中佐「マドリ」トフニ讓與シタルニヨリ
者ハ貴殿カ撫順炭坑ノ經營ヲ露國
人ノ手裡ニ收メラシタルコトニ關シ及ヒ貴
會社負トシ交渉ニ關スル當力ニ對シ其
他斯業ニ關スル周旋ノ勞ニ對シ將來
業及ヒ其他ノ企業ニ關シ將來助カシ
フルノ意ヲ表明セラレタルコトニ對シ其親
トシテ新所有者ノ所得ニ故スキ純益五
分ノ四ヨリ其百分ノ五ヲ各年貴殿
ノ差引リキ樣新所有者ニ要請スルコト

在獨日本公使館用

當トお認メテ

且貴殿ハ俄依頼ト拙者ノ約束トシ履行
スルカ為メ貴殿ノ家族即チ令及子女
ニ對シ前記百分ノ五受領ノ權ヲ留保ス
ルコトニ助力ヲ為シ但シ此權利ハ貴殿
ノ他ノ卑屬親ニハ之ヲ擴張スルコト
ニ對シテハ及ビ及ヒ通志者ノ同意ヲ
取ルベク致具

一九〇三年三月十号

ベゾブラーグフ

ヤエフ・ルビロフ 殿

別紙
譯文

譯文

願書

光緒二十七年八月七日清國臣民翁壽及公顏之
樂、千台山台及其他地方、於炭
坑採掘ノ為、資本募集ノ許可ヲ増
奉天將軍ニ請願シ且ツ軍事資金ノ
中へ銀壹萬兩ヲ納付セリ將軍ノ派遣
セル官吏ハ千台山台ノ小河、東方ニ前記
公羽壽及公顏之樂、指定シタル地區ヲ
檢分シ之ヲ可人等ニ區劃シ當時將軍
ハ其趣ヲ清國皇帝陛下ニ上奏シ之ヲ
當局官衙ニ通牒シ且ツ一般ニ公告セ

在露國日本公使館

リ前記諸願ニ對スル回答ヲ得タル後炭
坑採掘ノ目的ヲ以テ資本金二萬三
千兩、會社組織ヤル是初、請願者
外、出者、清國臣民商人、龍鳳台及
四名、清國臣民ヨリ成レリ而シテ炭坑
採掘ノ結果廣大ナル炭層ヲ見ユルヲ証
明シタルニヨリ資本金ヲ增加シ事業ヲ
擴張スルコトニ決セリ
光緒二十七年十一月一日清國臣民公濟
堂及ニ出者、退役陸軍大佐ルビールフ
出資者ノ内ニ加ハリ且ツ資本金ノ内へ
銀二萬二千兩ヲ出資シ内五千兩ハ公
濟堂一萬七千兩ハ出資ルビールフノ出資

為奇因係炭坑區域

係、斯、如、募、集、シ、タ、ル、資、本、金、四、
万、五、千、兩、之、ヲ、一、株、千、兩、ヲ、四、十、五、株、
ニ、分、テ、會、社、ノ、名、稱、ハ、撫、順、炭、坑、會、
社、ト、セ、リ

露、國、人、ノ、出、資、者、加、入、ノ、コ、ト、及、七、炭、坑、採、
掘、事、業、ノ、擴、張、ニ、就、テ、ハ、清、國、官、局、官、
憲、ニ、届、出、シ、置、ケ、リ、出、資、者、間、ノ、約、款、ハ、
拾、四、通、調、製、シ、内、四、通、(第、一、号)乃、至、
第、四、号)ハ、之、ヲ、地、官、憲、(奉、天、將、軍、政、
廳、交、渉、局、奉、天、軍、政、委、員、及、外、務、
省、汎、造、委、員)ニ、提、出、シ、其、保、管、ヲ、請、
ヒ、他、ノ、十、通、ニ、各、出、資、者、ニ、於、テ、之、ヲ、所、
持、ス

在露國日本公使館

千、九、百、一、年、十、月、日、出、資、者、ハ、拙、者、陸、軍、
大、佐、ル、ビ、ー、ノ、ヲ、取、締、後、ニ、拙、者、紀、鳳、
台、及、七、清、國、臣、氏、奉、化、東、ヲ、其、補、
助、者、ニ、權、定、シ、會、社、ノ、權、利、及、七、利、益、
ヲ、保、護、ス、ル、カ、者、ノ、會、社、ノ、全、權、代、表、
者、ト、シ、テ、露、國、西、亞、帝、國、及、七、大、清、帝、國、
ニ、請、願、ス、ル、權、限、ヲ、賦、與、セ、リ
撫、順、炭、坑、ハ、奉、天、府、ノ、東、方、四、十、五、里、
乃、至、四、十、五、里、露、里、ニ、マ、リ、テ、撫、順、界、河、
河、孟、中、ニ、存、在、ス、而、シ、テ、石、炭、採、掘、ノ、為、メ、
炭、坑、會、社、ニ、交、付、シ、タ、ル、地、區、ハ、延、長、三、十、
五、里、ニ、シ、テ、幅、度、ハ、撫、順、界、石、炭、層、ノ、全、部、
ニ、亘、リ、其、全、面、積、ニ、百、平、方、露、里、ヲ、超、ス

事業着手、當初は元知ル流通資本ヲ
欽如セシヨリ炭坑採掘ハ支那式ノ元始
的方法ヲ以テシ其採掘シタル石炭ハ之ヲ
奉天府ニ供給シ就中鉄道ニ使用セ

千九百三十四年、初メスタートスセケレタリ(官若
アエム、ベゾブラララゾフ、特別ノ全權ヲ帶
ビ極東ニ來リ撫順炭坑ニ関シ精細ナル
觀察ヲ遂ケ同炭坑ヲ同氏ニ讓與ハス
キ様拙者ルビノフニ提議セリ依テ
拙者共ニ讓與ノ条件ヲ取極メ千九
百三十四年三月一日一方ニ於テハ拙者共ルビ
一バフ及ヒ民鳳台ト地方ニ於テハハスネ

在露國日本公使館

ドスセケレタリ、ベゾブラララゾフノ指定ニ係リ
同氏ノ指命ノ下ニアル陸軍中佐、アエム、マド
リトフトハ間ニ契約ヲ締結シ同月十二
日之ヲ公証人心得テ旅順口地方裁
判所書記ニ提示セリ
前記契約ノ趣旨ハ即チ左ノ如シ
一撫順炭坑會社ノ獲得シタル石炭其
他諸炭採掘權並ニ同地ニ現在セル同
會社所屬ノ鐵ヲ造管物ハ總財產
目錄ト共ニ之ヲ陸軍中佐、マド
リトフニ讓渡ス
二之ニ對シ陸軍中佐、マドリトフ
ハ撫順炭坑會社ニ負カ同炭坑ヲ獲

得ニ注入シタル費用、賠償トシテ本契約締結ノ際一時ニ五万兩ヲ同會社負

仕掛 フコト

①元撫順炭坑會社株主ニ資本金

五分ノ一ノ程度ニ於テ同地方ノ石炭其
他諸礦採掘事業ニ參與スルヲ許

スコト

②斯業ニ參與ノ程度ニ應ジ斯業經營

ヨリ生スル純益ノ五分ノ一即チ二十

口セントシテ元株主ニ與フルコト

三、撫順炭坑會社ニ名稱ハ同炭坑カ新

企業者ニ移轉スルニ變更スルコトナシ

四、陸軍中佐 マドリフトハ撫順炭坑ヲ

在露國日本公使館

新企業者ニ讓渡スル權ヲ留保スルコト

但シ撫順炭坑會社株主ノ為メ本契

約ニ言明セル權利ハ斯業カ新企業者

ニ移轉スルニ依然其効力ヲ有シ且ツ該

株主ハ其持分ニ比例シ事業員上ニ企

業ニ參與スルコトヲ得ヘキ條件ヲ付

スルコト

五、若シ何等カノ理由ニヨリ陸軍中佐マド

ドリフト若シハ其繼承者石炭ノ採掘

ヲ中止シシテ年間ニ之ヲ再興セザルハ

石炭其他諸礦採掘ノ為メ本契約ニヨ

リ讓渡シタル地區ハ總テ建物其他造

當物ト共ニ無償ニテ撫順炭坑會社株

主に移轉スルモノトス

六、拙者共陸軍大佐ルビーノフ及ヒ商人紀鳳
台ハ企業ノ情態ニ関シ報告ヲ受クルノ
權利ヲ有ス

此外本契約ニ記入セザリシモ炭坑ノ採掘ハ
大規模ノ經營ヲナシ炭坑ニ向ケ鉄道支
線ヲ布設スルニ二条件ヲ付セリ

此二条件ヲスタートスセケレタリ、ビゾブラゾフ
ノ主張ニヨリ契約中ニ包含セザリシ所以ハ
月氏カ其必要ナキニトシ確言シタルニヨリ何
トナレハ月氏カ拙者共ノ提議セシ条件ヲ
採用セシ後未ダ陸軍中佐マドリートフト
本契約ヲ締結セサル前、即チ千九百三年二

在露國日本公使館

月一日炭坑採掘事業ノ擴張ニ関シ豫定
事業ノ設計及ヒ豫算ヲ編製シ炭坑
向ケ鉄道支線ヲ布設ノ者ノ相當ノ豫測
ヲ行ヒ又本契約ハ陸軍中佐マドリートフト
ト拙者共トノ間ニ締結シタルモノナリト是凡斯
業ノ事實上ノ主人公ニシテ監理者ナリシ者
ハエグデルメリス、セクレタリー、ア、エム、ビゾブラゾフナレ
ハナリ而シテ同一年六月ヨリ、露國極東森林
林會社ニ移リ同會社ノ代表者ハ最初
エゲルメリス、(官名)イ、ビゾブラゾフナリシ
カ千九百四年二月ヨリ、極東大守幕
僚ニシテ同時ニ森林會社ニ勤務セル
陸軍中佐、エヌ、エヌ、スタルクトナリ千九

百三十四年三月一日ノ契約ニヨリ該權利ヲ
露國森林會社ニ讓與ノ件ハ同年
七月三十日聖彼得堡市公証人アル
ツイブリーシエフノ公証後塔ニ於テ陸軍中佐
マドリートフノ裏書ニヨリテ成立シタルモノ
ナリ

千九百三十四年ニ於ケル森林會社ノ行動ハ
微々タルモノニシテ炭坑採掘事業ハ擴張
セラレタルコトナク鐵道支線ノ布設ニモ着
手セカリシカ千九百四年二月ヨリ事業少
シク動ツ加ヘ鐵道及ヒ軍隊ニ卸賣
又ハ小賣ツヒテ石炭ヲ供給セリ然レモ
鐵道支線ノ布設ニ尚ホ未タ着手ス

在露國日本公使館

ルトコトナカリシ同年七月七日ヨリ森林會社
ハ炭坑ヲ墾テ商人モイセリ、アキモラウケ
ギンズブルグノ措辦ニ委シテ戦後開
始ト共ニ炭坑經營ニ関シ自己ノ行動
ヲ避クルコトヲ沙シタリ
拙者共ハ森林會社ノ事業ノ情態ニ関シ正
確ナル報告ヲ得ントシ試シタルモ遂ニ成效
セカリシカ本年ニ至リ、又、エヌ、ヌタルクハ拙者
共ニ極頂炭坑ニ関スル千九百六年一月一日現
在森林會社收支計算ヲ通知シ且ツ曩
ニ拙者共ノ周知セシトコロナル千九百六年七月
七日露國極東森林會社ハ聖彼得堡
市居住米國人 スミットニ諸權利讓渡ノ

件事實實ナル旨書面ヲ以テ確認シ来レリ
 又、エヌ、エヌ、スタルクハ千九百七年六月十一日付
 書面中ニ撫順炭坑採掘事業ハ奉天
 府カ日本軍ノ手裡ニ飯スルニテ經營シ
 来ツレシモ其後事業再興ノ聲ナカリシ
 旨附言セリ撫順炭坑カ事實上日本
 人ノ占領ニ飯シタルニヨリ先ツ以テ炭坑
 經營ノ為メ森林會社ニ屬スル諸權利
 ヲ回復スルノ必要アル趣ヲ以テ相當ノ手
 段ヲ執リタリトスタルク氏ノ書面中ニ
 アレモ其手段ノ如何ナルモノナリシヤハ同氏ノ
 指示セサルトコトナリ拙者陸軍大佐ルビ
 ノフカ在東京帝國公使館ニ宛テ乞請

在露國日本公使館

願書ニ對シ森林會社代表者、オーセル、エゲ
 ル、ラス、レル(官名)ハラシヨフハ本件ニ關シ森
 林會社ノ名義ヲ以テ日本政府ニ向セ何事
 ノ要求ヲ提起セサル様外務省ニ請願
 タル趣ニ回答アリタリ
 拙者共ハ陸軍中佐、スタルクヨリ前記通知
 書受領後合衆國民、ウイリヤム、エツアルド、
 ウィル、ス、ニツトニ向ヒ露國森林會社ヨリ
 撫順炭坑採掘權ヲ獲得ノ事實ヲ確
 報スル様公証人ヲ經テ書面ヲ以テ依
 頼セシニ同氏ハ千九百七年七月撫順炭
 坑採掘權ニ關シ露國極東森林會社ニ
 屬シタル諸權利獲得ノ事實ナルヲ右諸



權利獲得ニ関スル契約、贖本ノ義ハ同契
 約カ同氏ノ商業上ノ秘密ナルモノニシテ、拙者
 共ニ無関係ノモノナリ付、拙者共ニ通知シ難
 キモノト認ムルコト、同氏ハ炭坑採掘權獲
 得ノ時ヨリ未タ何等ノ經營ヲ行ヒタルコトナ
 キモ、該權利ヲ現實ニスルカ爲メ、相當ノ手段
 ヲ執リ、ワ、アル旨公証人ヲ經テ同年六月二十
 三日付書面ヲ以テ通知シ来レリ
 以上ハ拙者共ニ風台及ヒルビノフニ屬スル
 撫順炭坑採掘事業ノ現状ナリ、森林會
 社カ斯業擴張及ヒ鉄道支線布設ノ
 条件ヲ履行セザリシガ、拙者共撫順炭
 坑會社株主ヲシテ不利ナル情態ニ陥ラ
 レタル件、森林會社カ千九百三年三月一
 日ノ契約ヲ拙者共ノ承諾ナク、合衆國
 民ノスミツトニ讓渡シタルコトノ正當ナルヤ否ヤ
 ノ件、同氏カ森林會社トシテ契約ヲ贖本
 ヲ拙者共ニ通知スルコトヲ拒絶シタル件並
 ニ營業報告及ビ營業上ノ損失其他ニ
 關スル件ハ、總テ裁判所ノ管轄ニ屬スル
 モノナリ、然レモ拙者共ノ利害關係ハ、此等
 法上ノ一般問題ニ關係ナリ、主トシテ露國
 臣民タル拙者共カ清國政府ノ許可ヲ經テ
 獲得シタル權利ヲ今ヤ日本政府又ハ
 同政府ノ承諾ヨリ私人ニ侵害セラレタル
 事、付之ヲ保護スルニアリ、然ルニ該事件カ露

在露國日本公使館

國々境外ニあり且ツ斯ル特殊ノ情態ニアル
 之トハテ拙者共ハ清國又ハ日本ノ訴訟手
 續ニ據リ該權利ヲ保護スルコト不可能
 ノ地位ニあり
 前陳ノ以テヨリ閣下ハ拙者共並ニ其組
 合員ノ撫順炭坑採掘權カ露國極東
 森林會社ノ過失ニヨリ何等ノ保護ヲ
 情態ニ委セラルレタラス又同會社ノ一
 代表者ノ過失ニヨリ貴省ヲ始メ在東京
 我公使館ハ今日ニ至ルマデ在極東露
 國臣民ノ利益ニ對シ保護ヲ與フルコト
 能ハサリシコトヲ御諒察ウ相成ル
 拙者共ハ露國臣民ニ拙者共並ニ其組
 合員ノ撫順炭坑採掘權回復ノ為メ閣下
 ノ御助力アラントシテ茲ニ懇願ニ及ヒル
 拙者共ハおトマス 謹和条約第六條カ
 決レテ撫順炭坑ニ實係セサルモノト相認メ
 情態何トシハ右炭坑ハ假令一時シカモ
 僅少ノ數量ニテ長春旅順日間鐵道
 ニ石炭ヲ供給シタルコトアリトモ右鐵道
 ノ權利カ該炭坑ニ對シ未タ當リテ擴張
 セラレタルコトナラシ又同炭坑ハ專ラ同鐵道ノ
 利益ニ為メニ採掘シタルモノニアラサルハナリ
 鐵道ハ炭坑會社ト契約者ノ一ニシテ
 キスレテ同炭坑ハ拙者共及ヒ其組合員ノ
 私有財産ナリ 謹和条約第五條ニヨ

在露國日本公使館



日本帝國政府ハ露國臣民ノ財産權
 完全ニ尊重ス(キコトヲ聲明セリ)及令ヒ
 同案ノ規定ハ持テ旅順口大連灣及ヒ
 其附近ノ土地ニ關スルモノナリト
 條約締結ノ際露國臣民ノ民法
 上ノ權利カ侵害ナリトモ侵害サレ得ヘカ
 リシモノナリトハ拙者共ノ了解シ難キトナリ
 拙者共カ清國領土内ニ於テ清國政府ヨリ
 獲得シタル權利カ無保護ノ情態ニ放
 置サレ得ヘキモノニアラスハ拙者共ハ閣下カ
 本件ニ關シ日本政府ト相當ノ交渉ヲ
 法開始アラント希望ニ不堪キ拙者共
 ハ本件ニ關シ日本政府ニ充分ノ説明
 在露國日本公使館
 ヲ與ヘ關係書類ヲ提供セハ撫順炭坑カ
 拙者共並ニ其組合員ニ利用ノ爲ニ邊
 付サル(キモノナルコト)同政府ニ証明スヤカト
 思考致シ拙者共ハ陸軍中佐マドリ
 トフトノ契約ヨリ炭坑採掘權ヲ讓渡
 ンガリト炭坑採掘權ヨリ生スル純益ノ
 五分々一ニ對スル權利ハ拙者共ノ方ニ留
 保サレアリ其後森林會社カ該炭坑採
 掘權ヲ辭退シ且ヨリ該權利ハ人々ハ拙
 者共ノ完全ナル財産ト認メラハ(キモノナ
 リ)
 拙者共ハ拙者共ノ主張カ閣下ノ懇切ナル
 御助力ヨリ心滿ト認メラシ満足ナル結果

得キテ期待致ル貴省ハ撫順炭
 坑カホトトマシ講和条約第六條計上
 セル炭坑中ニ包含サルキモノヲテ御認
 定ノ上同条約ニ基キ該炭坑ニ對シテ
 對不撥ノ權利ヲ擁護炭坑會社ニ屬ス
 ヘキモノナリト承認スル様日清兩國政府
 ノ承認ヲ取ツテ以テ現在該炭坑ヲ
 不利益ニ利用シツアル者ノキヨリ之ヲ奪
 取シ日本人カ該炭坑占領ノ際存在
 シタル財産ト共ニ之ヲ抽出者共及其組合
 員ニ返却サル様法助力ガ成ルコトニ相
 考ヘテ抽出者共ノ私有財産讓渡ノ
 為メニ蒙リタル損害ニ對シテ兩國政府
 在露國日本公使館
 ニ向ヒ賠償ノ權利ヲ主張セシムルコトニ寧ロ抽
 出者共ノ希望スルコトニ急シク
 添付書類
 奉天將軍命令字及其公告字將軍
 認可ノ會社定款字陸軍中佐マド
 リードフト締結シタル契約字
 現住地聖彼得堡市フオンタンカ河岸
 家屋第四十五番
 本籍 ブラゴウエシエンスク市
 退後陸軍大佐 ヤラ、フオロウイ、ルゼーノフ
 本籍 ハロフスク市
 同市一等高純鳳台

外務大臣殿

備考

右願書、昨年九月頃提出シタル由ナリ

在露國日本公使館

1-1809

0222

別紙

契約書

花翎同知銜候選知縣翁壽候選直隸
 州州判顏之樂(兩名)清國林主紀鳳台朱
 化東趙子秀郭振遠于程九何子陽公
 清堂露國林主ヤコフビ等光緒二
 十七年八月七日即千九百零一年九
 月七日付テ以テ撫順界千山台壽ノ石炭礦
 開掘ノ許可ヲ得ル為メ報効銀壹萬兩ヲ
 納付シタリ此事ニ付テ盛京將軍増ヲ
 岡堀リ許可セラシ同時ニ報効銀壹萬兩ヲ
 納付シタリ此事ニ付テ盛京將軍増ヲ
 玉ヨリ運出シテ上奏セラシ一面ニ委員ヲ派シテ實
 地踏査ノ上礦區境界ヲ確定スルヲ命セ
 レシ該處楊伯傑ノ南北ハ河ヲ以テ界トナシ
 河以西ハ王承堯ノ岡堀ニ歸シ河以東ハ公明
 壽ノ教之樂ノ岡堀ニ歸ス徵收税金ハ百

外務省

年ニ付東銀(舊銀)五吊ヲ上納シ別ニ秤捐
 東鐵式吊ヲ上納スルトナシテ依テ直ニ公
 司ヲ組織シ商人延鳳名、先化東趙子秀、
 何子陽、鄭振遠、于程九ト公認壽、款之
 樂ヲ令セ共ニハ名ニテ株金式券多ク兩ヲ
 集メテ用楯ノ盾出ツルニ然レト今般礦
 賦納ニ有望ナルニ因リ事業ヲ擴張シテ稅
 金ヲ増納シ國家ノ財源ヲ開發セシト欲
 シタル際公濟堂ハ株金五千兩ヲ出シテ株主
 カラレテラ望ミ礦業ニ熟練ナル露國退職中
 佐フヤニルビノフ株金壹萬七千兩ヲ出シテ
 株主タラレテラ申シテ公認ノ前キニ
 集メタル式券多ク兩ヲ加ヘテ皆本金四
 萬五千兩トナシテ即チ一標壹千兩トシテ
 ニ四千五枚ナリ依テ株券四千五枚ヲ製シ
 一國商議シテ各自株主ナルトテ承認シ

外務省

たり又と磁業修例ニ照ラスニ聊力違背ス
 ル事ナシ多額主ノ格券ニ蓋印スルヲ許
 ス但し格券ヲ蓋印スル時、格券内ニ在
 合保証人ノ姓名ヲ記入シ本人自ラ署
 判スヤシ唯と公認券、熟之券ニ蓋印人ナシ
 可故、後両名ノ格券、他人ニ蓋印スル能ハス尤
 モ公司格券ニ蓋印スルハ蓋印ナシ以テ信
 用ヲ確立ニス該公司ハ撫順煤礦公司ト
 外務省
 名稱スベレバ、會社一印ノ規則及ニ評議ニ
 ベキ事件ハ公司格券ノ公標シヨル人々ニテ集
 議スベレ現ニ露國株主ヲ添加シ磁業ヲ擴張
 スルノ理由ヲ以テ磁業將軍増、券又撫平玉
 ニ上申シテ、此券及ヤ公司組織ニ因ルヲ以テ公
 議ノ上契約書十四通ヲ調製シ各株主ノ姓
 名ヲ記入シ各書判ヲ行ヘリ此契約書一通
 磁業將軍増ニ差出し一通ニ公司ニ保存シ

其系、各一箇ヲ指稱シテ後日ノ証ト爲ス

棟主姓名

監 書判

款之末

朱代東

趙子秀

何子陽

郭振遠

外 濟 省

于經九

紀鳳名

ヤコフニ

公濟堂

支店二十七年 去り

此製治書、其二十四箇ニテ其書ヲ以テテ

四ノ三ニテ其書ヲ以テテ其書ヲ以テテ

ニ号ニ交際局ニ保存シ
第一号ニ奉天駐
在ノ「山」フミ「サ」
總理各國事務衙門
ニ「サ」
シテ
一通宛所持ス
レテ所持セシメ
後日ノ証ト爲

此型封書ニ對シテ
捺印
永達所存ノ
證書トス

外務省

別紙ヲ九ノリ翻澤

公告

奉天省將軍、陸軍部、刑部、尚書、奉天府尹、陸軍
尚書、都察院都御史、奉天巡撫兼理糧餉、降二
級、貶黜ヲ受ケ奉天將軍官等ニ在ルヲ臨時許可セラ
レタル増ハ君命ニ依リ茲ニ一般ニ告示スルコト左ノ
如シ

官吏 翁壽 及 顏之樂 王 洋 堯

外務省

ヨリ 千 山 名 地ニ於ケル炭鑛採掘開始申

請ニ關シ本官ノ派遣シタル官吏ハ検査ヲ行ヒ南方
ヨリ北方ニ向テ該地ヲ横流スル小川ヲ以テ炭鑛間ノ境
界ト定メ

小川ヨリ東方ハ作業ノ為メ 翁壽 洋 堯 二分共ニ而シ
テ西方ニ於テハ 王 洋 堯 業ヲ作スヘシ

本官ハ前記企業者ニ對シ適當ノ採掘ノ為メ鑛坑

二出発ヲ命スルト今時ニ *Chen-ge* 知縣及 ^{世順} ~~...~~ 官
 吏ニハ今人等ニ保護ヲ與ヘ又秩序ヲ保 ^{...} 守ル事
 訓達シ高ホ本件一切ニ關シ 陛下ニ上奏シ當該官
 衙ニ通知ヲ發シタリ
 前記一切ニ拘ハラス茲ニ附近ノ住民ニ左ノ事項ヲ公告
 ス
 住民ハ前記作業ニ妨礙ヲ加ヘ又爭論ヲ醸スルカ
 外務省
 如キ無分別アルハカラス蓋シ炭鑛ノ開發ハ吾家ニ収
 入ノ新財源ヲ興フヘク此ハ現時ニ於テ特ニ重用ナル
 モトス若シ反抗ヲ企テ作業ニ妨礙ヲ加フルカ如キ
 悪徒ヲ發見シタルトキハ地方官憲ニ訓達シテ即時
 犯人ヲ捕縛シ所罰 ^{...} 假借スルトコロナカルヘシ
 前記企業者ニ於テモ亦自己ノ勞働者ヲ嚴重ニ
 取締リ暴行又ハ不穩ノ行アラシメス且ツ高業ハ

公平ニ行ハル、ニ勗ムシシ企業者ニ於テ之ニ違反
スルトキハ住民ハ地方官憲ニ訴フルコトヲ得全官憲
ハ命ヲ受ケテ違滞ナリ犯人ヲ調査シ嚴酷ニ所罰
スヘシ

^{明治}光緒二十七年八月八日

支那文ヨリ翻譯ス

千九百零七年六月二十四日

外務省

四等官 パー、ハポフ

外務省第一部ハエス、パテルブルグ帝國大學東洋語
科支那語教授元在北京露國帝國公使館一等通
譯官四等官ハポフノ右記名ノ正確ナルヲ茲ニ官印
ヲ以テ証明ス

エス、パテルブルグ 千九百零七年六月二十六日

次長

主事代理証名

記名第三六八七脚印

スバスカヤ區ネフスキー大街第五十二番户エス、ヤテル
ブルグ公証人下名ウイクトル、リュウチウシエウイテ、ナゲ
ールスキーハ本謄本ノ其原本ト相違ナキコトヲ証ス
右原本ハモスコフスカヤ區ホシタンカ川邊第六十八脚住
スタロバリスキー町民ボリス、コタロウイテ、シヤホワロ
外務省

ウイ之ヲ本公証役場ニ提出セリ、本謄本ト原本
トヲ照合スルニ^等原本ニハ訂正、削除、抹殺ノ文字、追加
其他何等特別ノ箇所ナシ千九百七年六月二十八日
登録第四四三脚原本ハ印紙税拂込ナシ、謄本
ハ印紙税規則第六十三条ニ従ヒ印紙税ヲ拂込ム
コトナシ

公証人 ウエー、ナグールスキー印

別紙第十号翻譯

契約書第七號

花頂

光緒治世二十七年十一月一日下名ノ吾等即今羽翎頭戴

候補知縣姓 ^{翁壽} 及候補區長 ^{顏文樂} 并

支那組合商人 ^{紀鳳能 朱化東 趙子秀}

郭振遠、干程九、何子陽、公

濟堂 及露年商人ヤコフ、ルビリック、ハ本契約ヲ締

結シ左ノ通り約定セリ

外務省

千九百零一年九月七日清曆光緒治世二十七年八月七日

地方ナリ ^{千山} 及其他ノ地ニ於ケル炭鑛採

掘開始許可ヲ奉天將軍ニ申請シ同時ニ銀千 ^兩

ヲ國庫ニ納入スヘキコトヲ申出テタリ

本領ニ對シ將軍 ^增 ハ自己ノ承認ヲ表シ且銀千

兩 ^兩 ヲ受入レ奉天 ^{格甲王} ト共ニ之ニ關シ陛下ニ

上奏セリ

<p> 派遣ヲ命セラレタル官吏等ハ石炭産出地ノ検査及分界 ヲ行ヒタリ境界ニハ全地ヲ北南方ヨリ北方、向テ貫流 スル小川、^{楊伯堡}ヲ定メタリ、全小川ヨリ西方ノ土地ハ 官吏^王、^東ニ^東方ノ部分ハ官吏^{翁壽} 及^{翁壽}ノ^分共ニ^{タリ} </p>	<p> 税金ニ關シテハ地方債ヲ以テ各百^吊ニ付五^吊宛 ノ外ニ重量税ニ^吊宛ヲ納入スルキコトヲ定メタリ </p>	<p> 次デ資本金銀二万三千^兩ヲ有スル會社ヲ組織 シタリ而シテ其株主ハ商人^{紀原名、朱化東} 趙子^{秀、何子陽、郭振遠} 干^{程九}、^{翁壽}、^{翁壽}、^{翁壽} 及^{翁壽}、^{翁壽}、^{翁壽}、^{翁壽} 及^{翁壽}、^{翁壽}、^{翁壽}、^{翁壽} </p>	<p> 現時、於テハ調査ノ結果巨大ナル石炭層ヲ發見シタリ ハ課税令増額及軍資金増資ノ爲メ資本金ヲ </p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

増加し事業ヲ擴張スルコトニ決セリ會社員トシテ入社
 ヲ希望スル者ニ名アリ即今 ^公 ^濟 ^堂 及 鐘山
 業ニ精通ニシタル退職陸軍大佐フルービークナリ前者
 ハ五千 ^兩 後者ハ一萬七千 ^兩 拂込ヲ希望セルヲ以
 テ前資本金ニ萬三千 ^兩 ト通計銀四萬五千 ^兩
 ヲ計上スヘシ
 今回ノ總會ニ於テ會社定款ニ基キ前記ノ者ノ入社許可
 外 務 省
 ヲ決セリ而シテ協資本金銀四萬五千 ^兩 ハ四十五株
 ニ分割シ一株一千 ^兩 定メタリ
 會社ノ株主ハ自己株ヲ賣渡スコトヲ得然レニ此際株
 券ノ証人及保証人ノ姓名ヲ認メ株主ノ自筆記名ヲナス
 ニトテ要ス猶會社ノ設立者タル ^翁 ^書 及 ^親 ^之 ^樂
 ハ変更ヲ避クン為メ會社株主ノ外他人ニ自己株
 ヲ賣渡スコトヲ得ス

今日之總會ニ於テ該會社ヲ ^格 定議會社ト稱ス
ルコトヲ決セリ會社ニ關スル問題ノ解決并鑛坑ノ營業
ニ關スル規則ノ編成ハ會社ノ理事ニ委任セラル

露國株主^増及石炭事業擴張ニ關シテ奉天將軍
及 ^格 王 ^格 王ニ報告セラル

本契約ハ十四部ニ認メ之ニ總テノ株主ハ白筆ヲ以テ姓名
ヲ認メ將軍ニ送付并會社本店保存ニ係ル契約書
外務省

ノ數部ヲ除キ殘部ハ証書トシテ各株主ニ分配ス
株主及其白筆記左ノ如シ
翁壽、^格 欽、^格 之、^格 樂、^格 朱、^格 化、^格 東、^格 趙、^格 子
^格 秀、^格 子、^格 陽、^格 郭、^格 振、^格 遠、^格 于
程九、^格 紀、^格 恩、^格 名、^格 公、^格 濟、^格 堂
及

光緒御世二十七年十一月一日

一乃至十四番号ヲ附トシ本契約書十四部ニ因スル決裁

第一号 奉天將軍役所ニ保存

第二号 交渉局 同上

第三号 奉天陸軍代官 保存

第四号 外務省代官 保存

自第五至才一四号 各株主之ヲ有ス第七号ハ *Chijin Ikuo*

Ami 之ヲ有セサルハカラス

外務省

附

和盛通

本契約書ハ四個ノ株ト共ニ ~~本~~ 高店ノ所有ニ
移轉ヤリ

支那文ヨリ翻訳ス

一九〇七年六月ニ至ル 四十官アリ、ハボク

支那文原本ニハ奉天將軍及市長ノ捺印アリ

外務省第一号ニヨス、パテルブングレ、帝大、学、東洋、語、科

支那語教授元在北京露邦帝公使館一等通譯官
四等官「ハボフ」ノ名記名ノ白確ナルヲ茲ニ官印ヲ以テ証
明ス

トス、ヤテル「ブンゲ」ケル七年六月三十一日

次長 コロストウエト

主事代理 記名

印ヲ三六八号

外務省

「ハ」ハ本騰本ノ身原本ト相違ナキニトテ極々右原本
「ハ」モスコフスカヤ区ホシタシカホ川通第六十八号住シタロベ
リス「ハ」所民ボリス、マクローイケ、シヤボワロウイレ之ヲ本
公函殺場ニ提出セリ、本騰本ト原本トヲ照合スルニ
原本ニハ訂正ノ抹殺ノ文字ニ追加其他何等特別ノ箇

所ナシ 千九百零七年六月三十日 登録第 四四五五 号 原簿
ハ印紙税拂込シ、 勝手ハ印紙税規則 第二十三 条ニ従
ヒ印紙税ヲ拂込ムコトナシ

公 証 人 ウエーナゲールスキー 印

外 務 省

1-1809

0238

別紙第十号翻訳

奉天將軍 Japan 命令

候補知縣 **翁壽** 候補區長 **王承堯** 及候補

補州候補書記官 **王承堯** 軍資金内ニ

各壹万 **西** 寄附上 **千** 山 **台** 及其他ノ地ニ

於ケル石炭鑛採掘權金募集申請ニ關シ

本官ノ派遣シタル官吏ハ前記官吏即チ企業者トシテ

道調査及分界ノ為メ前記ノ地ニ到リ全地ニ於テ南方

外務省

ヨリ北方ニ流ルハ小川ヲ境界ト定メ採掘ノ為メ其東

方 **翁壽** 及 **王承堯** ニ又其西方 **王承堯**

及 **王承堯** ニ土地ヲ分與シテリ派遣官吏 *Sin Chao*

gan 及 *Cham-de* ノ報告ニ依レバ全官等ハ企業者ノ

全採掘ニ全意ナル旨ノ任意領収書ヲ受取レリ

各當事者ノ銀壹万 **兩** 宛寄附金ハ既ニ全部納

付ヲ了シタルヲ以テ全人等ニ採掘着手ヲ許可スヘキハ

當然ナリ

San-togin / fu-du-tanニ通告ヲ發シ *Chen-ko* 知縣

及 ~~指~~ 官吏ニハ保護ヲ與ヘ秩序ヲ保持スヘキ

コトヲ命レ又一般ニ告示ヲ與ヘタレハ本命令ヲ即時遂

行セシメ至急事業ニ着手スヘキコトヲ前記官吏即チ

企業者ニ諭達スヘキ義務アリト信ス

本件ニ関シ私人ノ田畑、菜園、住家及墓地ハ取拂(訳者

外務省

日一原文ニ掲植アリ多ク取拂(文字ナルシ)又ハ買収スヘシ決シテ

暴力ヲ以テ奪取シ又ハ破壊スルコトヲ得ス

境界ハ明白ニ表ハシアルヲ以テ争論ヲ避クル為メ各企

業者ハ自己ノ鑛坑ノミヲ採掘 ~~シ~~ 奪取 ~~ス~~ 取付ヲ得ス

一書

本事件ハ鑛坑ヨリ空収スヘキ國稅ニ關係即ルヲ以テ之

ニ関シ遲滞ナク上奏シ且ツ當該官廳ニ通知スル必要

アリ故ニ企業者ハ一方ニ於テ右終了ノ後相當ノ許可ヲ
得又他方ニ於テ細則ヲ定ムヘシ且ツ税金徴収開始ノ
日ヲ調査シ報告及通知ノ為メ之ヲ本官ニ届出ツヘシ
尚ホ之ト同時ニ作業開始ノ日ヲ届出ツヘシ本官令書
ハ前書及款之票ニ交付ス

治世光緒三十七年八月七日

支那文ヨリ翻訳ス

外務省

千九百零七年六月三日

四等官 ヲ、ハポフ

訂正ノ相違ナシ

ヨ、ハポフ

外務省第一部長ヨリ、ハポフ
科支那語教授元在北京露國帝國公使館一等通譯
官四等官ハポフノ右記名ノ正確ナルヲ茲ニ官印ヲ以テ
証明ス

エス、ハポフ、千九百零七年六月三日

次長

コレストロエト

主事代理

記名

記名第三六八七号印

「スバスカヤ」區「スキ」大街第五十二番「ロス、ヤテルグ
ルグ」公証人下名「ウケトル、リウケウシエウケ、ナグールスキ」

ハ本謄本ノ其ノ原本ト相違ナキトヲ証ス右原本ハ

「モスコフスカヤ」區「ボンタンカ川」通第六十八号住「スタロバリ

外務省

スキ」町民「ポリス、マコウケ、シヤホワロウ」之ヲ本公

証役場ニ提出セリ本謄本ト原本トヲ照合スルニ原本

ニハ訂正、削除、抹殺ノ文字、追加其他何等特別ノ箇所

ナシ

千九百七年六月三十日登録第四四五二号

原本ハ印紙税拂込ナシ、謄本ハ印紙税規則第六十三

条ニ従ヒ印紙税ヲ拂込ムコトナシ

公使
ウエー、ナグールスキー印

外務省

61

1-1809

0243

Іюня 25 дня. По реестру № 861. Исп.об. Нотариуса Черно-
дубравскій. /М.П./.- Я, нижеподписавшійся, удостоверяю
вѣрность этой копіи съ копією, представленною мнѣ, Влади-
славу Коаверьевичу Ивашкевичу, С.-Петербургскому Нотариусу,
въ конторѣ моей Литейной части, на углу Литейнаго и Нев-
скаго проспек. № 64-78, отставнымъ полковникомъ Яковомъ Фе-
доровичемъ Рубиновымъ, жительствующимъ Рождественской час-
ти, по Невскому просп. № 118. При сличеніи мною этой копіи
съ копією, въ послѣдней почитокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ
словъ и никакихъ особенностей не было и таковая оплачена
гербовымъ сборомъ въ одинъ рубль; въ сей же копіи зачерк-
нуто: "однацѣть" и "язаместѣ". 1905 года Марта 12 дня.-
По реестру № 1598. Поправлено: "таковая оплачена". Нота-
риусъ Вл. Ивашкевичъ. /М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостоверяю вѣрность этой копіи
съ копією, представленною мнѣ, Валеріану Эдуардовичу Гревсъ
С.-Петербургскому Нотариусу, въ конторѣ моей, Казанской
части, по Невскому проспекту № 24, Дѣйствительнымъ Стат-
скимъ Совѣтникомъ Александромъ Георгиевичемъ Громовымъ,
живущимъ Петербургской части, по Александровскому проспек-
ту № 13. При сличеніи мною этой копіи съ представленною
копією въ послѣдней подчитокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ
словъ и никакихъ особенностей не было, кромѣ оговореннаго.
Представленная копія оплачена гербовымъ сборомъ въ одинъ
рубль. 1907 года Ноября 2 дня. По реестру № 8175. Нота-

риусъ В. Гревсъ. /М.П./.- Я, нижеподписавшійся удостоверяю
вѣрность этой копіи съ копією, представленною мнѣ, Влади-
миру Ивановичу Караль, И.д. Валеріана Эдуардовича Гревсъ,
С.-Петербургскаго Нотариуса, въ конторѣ его Казанской части
по Невскому проспекту № 24, Дѣйствительнымъ Статскимъ Совѣт-
никомъ Александромъ Георгиевичемъ Громовымъ, живущимъ Петер-
бургской части, по Александровскому пр. № 1. При сличеніи
мною этой копіи съ представленною копією, въ послѣдней по-
читокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ сл овъ и никакихъ особен-
ностей не было, въ сей же копіи зачеркнуто "г" и исправлено
"года". Представленная копія оплачена гербовымъ сборомъ
въ одинъ рубль двадцать пять коп. 1908 года Января 19 дня.
по реестру № 666. И.д. Нотариуса Караль.

Печать Нотариуса Валеріана Гревсъ, С.-Петербургъ.

Алексѣй Павловичъ Игнатьевъ. Полковникъ Кавалергардскаго ЕЯ ВЕЛИЧЕСТВА ИМПЕРАТРИЦЫ МАРИИ ФЕОДОРОВНЫ полка Михаилъ Аполлоновичъ Серебряковъ, Дѣйствительный Статскій Совѣтникъ Николай Гавриловичъ Матюнинъ. Оберъ-Церемоніймейстеръ Графъ Василій Александровичъ Гендриковъ. Князь Феликсъ Феликсовичъ Юсуповъ - Графъ Сумароковъ-Эльстонъ. Генераль-Адъютантъ Петръ Павловичъ Гессе. Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю, что предстоящія подписи сдѣланы собственноручно въ присутствіи моемъ, Михаила Александровича Сусленникова, И.д. С.-Петербургскаго Нотаріуса Петра Михайловича Архипушева, въ конторѣ его, Московской части, по Невскому проспекту № 61, известными мнѣ лично: Свиты ЕГО ВЕЛИЧЕСТВА Контръ-Адмираломъ Алексѣемъ Михайловичемъ Абаза, Полковникомъ Гвардіи въ отставкѣ Владиміромъ Михайловичемъ Вонлярлярскимъ, Генераломъ отъ Кавалеріи Графомъ Алексѣемъ Павловичемъ Игнатьевымъ, Полковникомъ Кавалергардскаго ЕЯ ВЕЛИЧЕСТВА ГОСУДАРНИ ИМПЕРАТРИЦЫ МАРИИ ФЕОДОРОВНЫ полка Михаиломъ Аполлоновичемъ Серебряковымъ, Дѣйствительнымъ Статскимъ Совѣтникомъ Николаемъ Гавриловичемъ Матюнинымъ, Оберъ-Церемоніймейстеромъ Графомъ Васи́лемъ Александровичемъ Гендриковымъ, Княземъ Феликсомъ Феликсовичемъ Юсуповымъ - Графомъ Сумароковымъ-Эльстонъ и Генераль-Адъютантомъ Петромъ Павловичемъ Гессе, жительствующими: въ С.-Петербургѣ, 1-й по 5 линіи № 50. 2-й по фонтанкѣ № 22, 3-й по Французской набережной № 26, 4-й по той же набережной № 22, 5-й по Греческому пр. № 23, 6-й по Ми-

хайловской площади № 3, 7-й по набережной Мойки № 94 и 8-й по набережной Мойки № 18. 1903 года Мая 31 дня. По реестру № 2680. Оскобено "С.-Петербургскаго Нотаріуса". И.д. Нотаріуса М. Сусленниковъ. /М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю вѣрность этой копіи съ подлинникомъ ея, представленнымъ мнѣ, Михаилу Александровичу Сусленникову, И.д. С.-Петербургскаго Нотаріуса, въ конторѣ его, по Невскому пр. № 61, вышепоименованнымъ полковникомъ Гвардіи въ отставкѣ Владиміромъ Михайловичемъ Вонлярлярскимъ. При сличеніи мною этой копіи съ подлинникомъ въ послѣднемъ почистокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ словъ и никакихъ особенностей не было, кромѣ оговореннаго. 1903 года Мая 31 дня. По реестру № 2682. Подлинникъ оплаченъ рублевою гербовою маркою. Подписаль: И.д. Нотаріуса М. Сусленниковъ. /М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю вѣрность этой копіи съ копіей засвидѣтельствованной 31 Мая 1903 года И.д. С.-Петербургскаго Нотаріуса Сусленникова по реестру № 2682, представленной мнѣ Густину Федоровичу Чернодубравскому Секретарю Портъ-Артурскаго Окружнаго Суда, исполняющему обязанности Нотаріуса въ г. Портъ-Артурѣ, въ канцеляріи Окружнаго Суда, Подполковникомъ Николаемъ Николаевичемъ Старкъ, живущимъ въ г. Портъ-Артурѣ. При сличеніи мною этой копіи съ представленной, въ послѣдней подчистокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ словъ и прочихъ особенностей не было. 1903 года

К о п і я с ъ к о п и и .

Сербская марка
19. Сент.
1908г.

別紙第一号

С.-Петербургъ. Тысяча девятьсотъ третьяго года Мая тридцать перваго дня. Мы, нижеподписавшіеся: Генераль отъ Кавалеріи Графъ Алексій Павловичъ игнатьевъ, Генераль-Адъютантъ Петръ Павловичъ Гессе, Оберъ-Церемоніймейстеръ Графъ Василій Александровичъ Гендриковъ, Свиты ЕГО ВЕЛИЧЕСТВА Контръ-Адмиралъ Алексій Михайловичъ Абаза, Князь Феликсъ Феликсовичъ Юсуповъ - Графъ Сумароковъ Эльстонъ, Полковникъ Гвардіи въ отставкѣ Владиміръ Михайловичъ Вонлярлярскій, Дѣйствительный Статскій Совѣтникъ Николай Гавріловичъ Матюнинъ и Полковникъ Кавалергардскаго ЕЯ ВЕЛИЧЕСТВА ИМПЕРАТРИЦЫ МАРИИ ФЕОДОРОВНЫ полка Михаилъ Аполлоновичъ Серебряковъ, составили настоящій предварительный договоръ Товарищества на вѣрѣ, подъ фирмою: "Русское Лѣсопромышленное Товарищество на Дальнемъ Востокѣ", для эксплуатаціи въ предѣлахъ Маньчжуріи, Кореи и Приморской области всякаго рода лѣсныхъ концессій, рудныхъ богатствъ, рыбныхъ и звѣриныхъ промысловъ, судоходства, торговли и другихъ всякаго рода промысленныхъ и торговыхъ предпріятій. Основной капиталъ Товарищества имѣеть быть опредѣленъ въ теченіи шести мѣсяцевъ и вносится учасниками Товарищества по мѣрѣ надобности. Одинъ изъ участниковъ, по взаимному соглашенію, будетъ полнымъ товарищемъ, остальные - вкладчиками, причемъ вкладчики

отвѣчаютъ только своими вкладами и никакой дальнѣйшей ни личной, ни имущественной отвѣтственности за долги Товарищества не несутъ. Порядокъ дѣйствія Товарищества, права и обязанности товарищей, организація управления, отчетность и весь внутренній распорядокъ имѣеть быть выработанъ по соглашенію всѣхъ участниковъ и облеченъ въ установленную форму не далѣе шести мѣсяцевъ со дня подписанія сего договора. До истеченія сего срока вышеназванные участники на всѣ дѣйствія, со всѣми правами и обязанностями, какъ представителя Товарищества, уполномочиваютъ Егермейстера Двора ЕГО ВЕЛИЧЕСТВА Ивана Петровича Балашева, которому предоставляется расходование суммъ Товарищества, пріобрѣтеніе движимаго и недвижимаго имущества, всякаго рода концессій и арендныхъ статей, а также полное распоряженіе и управленіе всѣми имуществами и дѣлами Товарищества, съ обязанностью въ сихъ дѣйствіяхъ представлять надлежащіе отчеты. Распорядителями предпріятія избраны: Свиты ЕГО ВЕЛИЧЕСТВА Контръ-Адмиралъ Алексій Михайловичъ Абаза и Гвардіи Полковникъ въ отставкѣ Владиміръ Михайловичъ Вонлярлярскій, которымъ предоставляется выдавать надлежащія довѣренности, направлять дѣло, приглашать служащихъ, получать отчеты, имущество и деньги и, вообще, выполнять всѣ необходимыя по ходу дѣла дѣйствія и формальности. Свиты ЕГО ВЕЛИЧЕСТВА Контръ-Адмиралъ Алексій Михайловичъ Абаза. Полковникъ Гвардіи въ отставкѣ Владиміръ Михайловичъ Вонлярлярскій. Генераль отъ Кавалеріи Графъ

1-1809

0246

Подлинный договоръ и всѣ подлинныя акты и документы имѣть Вильяму Эдуарду Смитъ, а копіи съ нихъ Русскому Лѣсо-промышленному Товариществу на Дальнемъ Востокѣ, въ лицѣ г.г. Абаза и Митюнина. Всѣ права, приобретенныя по настоящему договору В. Э. Смитомъ, онъ, какъ полный ихъ собственникъ, въ ^{права} продавать и вообще переуступать другимъ лицамъ по своему единоличному усмотрѣнію, безъ испрошенія на то согласія Русскаго Лѣсопромышленнаго Товарищества на Дальнемъ Востокѣ, или другихъ лицъ или учреждений. По довѣренности единственныхъ владѣльцевъ Русскаго Лѣсопромышленнаго Товарищества на Дальнемъ Востокѣ свиты Е. И. В. к.-адм. А.М. Абаза и т.с. Н.Г. Митюнина подполковникъ Николай Николаевичъ Старкъ. Гражданинъ Сѣв. Америк. Штатовъ Вильямъ Эдуардъ Смитъ.

Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю что предстоящія подписи сдѣланы собственноручно въ присутствіи моемъ Василія Африкановича Быстроумова и.д. Петербургскаго Нотаріуса Юліана Осиповича Забѣльскаго, въ конторѣ его Адмиралтейской части, по Невскому пр. № 7, лично мнѣ известными Гражданиномъ Сѣв.-Америк. Соед. Штатовъ Вильямомъ Эдуардомъ Смитъ, лично за себя и подполковникомъ Николаемъ Николаевичемъ Старкъ, дѣйствующимъ по явленной въ конторѣ Петербургскаго Нотаріуса Забѣльскаго 30 Іюня 1906 г. за № 6146 довѣренности Оберъ-Егермейстера ВЫСОЧАЙШАГО ДВОРА Ивана Петровича Балачева, какъ уполномоченнаго свиты Е.И.В. к.-адм. А.М. Абаза и т.с. Николая Гавриловича Митюнина довѣренностью, явленной

въ конторѣ Петербургскаго Нотаріуса Забѣльскаго 30 Іюня 1906 года за № 6144, жительствующими: Ф. Смитъ Адмиралтейской части по нас. в. № 81, и г. Старкъ Петербургскій части по Большому пр. № 49 Іюля 7 дня 1906 г. По реестру № 6340. И.д. Нотаріуса В. Быстроумовъ. /М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю вѣрность этой копіи съ подлинникомъ ея, представленнымъ мнѣ, Василію Африкановичу Быстроумову, испр. должн. Петербургскаго Нотаріуса Юліана Осиповича Забѣльскаго, въ конторѣ его Адмиралтейской части по Невскому пр. № 7, вышепоименованнымъ г. Старкъ. При сличеніи мною этой копіи съ подлинникомъ въ последнемъ подчистокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ словъ и никакихъ особенностей не было. Подлинникъ оплаченъ гербосборомъ въ 10.000 р. Іюля 7-го дня 1906 года. По реестру № 6350. И.д. Нотаріуса Быстроумовъ.

別紙第三号

С. П. Бургъ 1906 г. Июля 7-го дня. Мы нижеподписав-
шіеся Русское Лѣсопромышленное Товарищество на Дальнемъ
Востоки въ лицѣ единственныхъ собственниковъ всѣхъ правъ
и всего имущества этого То-ва свиты Е. И. В. к.-адм. А. М.
Абаза и т. с. Николая Гавриловича Матюнина съ одной стороны
и съ другой стороны гражданинъ Св. Амер. Соед. Штатовъ
Вильямъ Эдуардъ Смитъ лично за себя заключили настоящій
договоръ въ слѣдующемъ: Русскому Лѣсопромышленному Т-ву на
Дальнемъ Востоки именуемому въ нѣкоторыхъ документахъ Ко-
рейская Лѣсная Компанія или Русское Лѣсопромышленное и Гор-
нопромышленное Товарищество на Дальнемъ Востоки или Лѣсо-
промышленное Товарищество, принадлежитъ въ Китаѣ безсро-
чная концессія на Фушунскія каменно-угольныя копи, въ мѣст-
ности Ценшинтая, Фушунскаго округа, данная Губернаторомъ
Цзянь-Цзюнемъ Шань-Цзинской провинціи Фушунской Каменно-
угольной кампаніи, 8-го числа 7-ой луны 27-го года правле-
нія Императора Гуань-Суй, — при копяхъ каменныхъ и деревян-
ные дома, строенія, заводскія сооруженія, шахты, поровыя
машины, заводскія строенія и матеріалы по особой описи, въ
каковой концессіи, на основаніи договора, заключеннаго 12
марта 903 года за № 377 у Секретаря Портъ-Артурскаго Ок-
ружнаго Суда исполняющаго обязанности Нотариуса, принадле-
житъ полковнику Якову Федоровичу Рубинову, Хабаровскому
купцу Тифонтаю и ихъ компаніонамъ право участія въ дѣлѣ и

въ прибыляхъ его въ одной пятой части всѣхъ вмѣстѣ. Всѣ
свои права на четыре пятыхъ частей означенной безсрочной
концессіи на Фушунскія каменно-угольныя копи со всѣмъ ихъ
движимымъ и недвижимымъ имуществомъ, въ чемъ бы такое не
заключалось, Русское Лѣсопромышленное Товарищество на Даль-
немъ Востоки продало г-ну Вильяму Эдуарду Смиту за два мил-
ліона/2.000.000/ рублей. Я, Смитъ, принимаю на себя всѣ
права по этой концессіи, принадлежавшія Русскому Лѣсопро-
мышленному Товариществу на Дальнемъ Востоки и нынѣ посту-
пившія въ мою собственность и обязуюсь исполнять въ точ-
ности всѣ обязанности, изложенныя во всѣхъ относящихся къ
этой концессіи договорахъ, фактахъ и документахъ означен-
ныхъ въ описи, къ сему договору подшитой и сторонами под-
писанной. При этомъ однако я, Смитъ, не принимаю на себя
никакой ответственности передъ кредиторами Русскаго Лѣсо-
промышленнаго Товарищества на Дальнемъ Востоки, или г.г.
Абаза и Матюнина, а также не имѣю права на полученіе ка-
кихъ либо денегъ, слѣдуемыхъ отъ дебиторовъ Русскаго Лѣсо-
промышленнаго Товарищества на Дальнемъ Востоки г.г. Абаза
и Матюнину. За цѣлость и сохранность всего вышеписаннаго
движимаго и недвижимаго имущества продавецъ ответственности
не принимаетъ, а переуступаетъ въ томъ видѣ, какъ оно фак-
тически окажется.

Расходы по совершенію сего акта я, Смитъ, принимаю на
себя.

дритовымъ, коимъ ст. 137 Пол. о Нотар. части объявлена. Присемъ
выскано въ пользу города двѣсти рублей. По реестру № 377. Въ
этомъ застѣдѣтельствѣ зачеркнуто "одиннадцатаго" и написано
"двѣнадцатаго". Исп. об. Нотариуса Чернодубравскій. /М.П./.-
Тысяча девятьсотъ третьяго года, Іюля 30 дня, я, нижеподписавшійся,
сдѣлалъ эту надпись въ томъ, что все права и обязанности по настоя-
щему договору передаю въ собственность Русскому Лѣсопромышленному
Товариществу на Дальнемъ Востокѣ. Генеральнаго Штаба Подполковникъ
Александръ Семеновичъ Мадритовъ. Я, нижеподписавшійся, удостоверяю,
что предстоящая подпись сдѣлана въ присутствіи моемъ, Михаила Алек-
сандровича Сусленикова, и.д. С.-Петербургскаго Нотариуса Петра
Михайловича Арцибушева, въ конторѣ его, Московской части, по Невскому
проспекту № 51, лично мнѣ известнымъ Генеральнаго Штаба Подполков-
никомъ Александромъ Семеновичемъ Мадритовымъ, живущимъ Московской
части, по Невскому проспекту № 51. 1903 года Іюля 30 дня. По реес-
тру № 3705. И.д. Нотариуса М. Суслениковъ. /М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостоверяю вѣрность этой копіи съ под-
линникомъ ея, представленнымъ мнѣ, Елиану Осиповичу Забѣльскому,

*С.-Петербургскому Нотариусу, въ конторѣ моей Адмиралтейской части,
по Невскому проспекту № 7, Николай Павловичъ Федоровичъ Рудниковъ,
теперь находящійся
въ Знаменской площади, въ Северной гостинницѣ. При сличеніи мною
этой копіи съ подлинникомъ, въ послѣднемъ: почистокъ, приписокъ,
зачеркнутыхъ словъ и никакихъ особенностей не было. Подлинникъ
оплаченъ гербовымъ сборомъ въ двѣсти двадцать рублей. 1904 года
Октября 30 дня. По реестру № 8422. Нотариусъ Забѣльскій. /М.П./.-*

Я, нижеподписавшійся, удостоверяю вѣрность этой копіи съ ко-
піей представленною мнѣ, Валеріану Эдуардовичу Гревсу С.-Петербург-
скому Нотариусу, въ конторѣ моей Казанской части, по Невскому проспек-
ту № 24, действительнымъ статскимъ совѣтникомъ Александромъ Георгі-

іевичемъ Громовымъ, живущимъ Петербургской части, по Александров-
скому проспекту № 13. При сличеніи мною этой копіи съ представлен-
ною копіей въ послѣдней подчистокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ словъ
и никакихъ особенностей не было, въ сей копіи на 2 стр. зачеркнуто 3
и исправлено дѣла и на 1 стр. исправлено Лѣсопромышленному. Предста-
вленная копія оплачена гербовымъ сборомъ въ одинъ рубль. 1907 года
Ноября 2 дня. По реестру № 8179. Нотариусъ В. Гревсъ. /М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостоверяю вѣрность этой копіи съ копіей
представленною мнѣ Владиміру Ивановичу Каралю, и.д. Валеріана Эдуардо-
вича Гревса, С.-Петербургскаго Нотариуса, въ конторѣ его, Казанской
части, по Невскому проспекту № 24, действительнымъ Статскимъ Совѣт-
никомъ Александромъ Георгіевичемъ Громовымъ, живущимъ Петербургской
части, по Александровскому проспекту № 13. При сличеніи мною этой
копіи съ представленною копіей, въ послѣдней почистокъ, приписокъ,
зачеркнутыхъ словъ и никакихъ особенностей не было, кромѣ оговорен-
наго. Представленная копія оплачена гербовымъ сборомъ въ одинъ рубль
двадцать пять копѣекъ. 1908 года Января 11 дня. По реестру № 345.
И.д. Нотариуса Каралю. /М.П./.-

Рубинова и Тисонтая участникамъ Фушунской каменноугольной компании, которые все вышесті имѣютъ въ семь дѣлъ пятьдесятъ акцій, — пятьдесятъ тысячъ рублей единовременно при заключеніи сего договора, въ возмѣщеніе понесенныхъ ими расходовъ на приобретение и оборудованіе Фушунской ^и копей; 6/ предоставляетъ владельцамъ акцій бывшей Фушунской каменноугольной компании участие въ дѣлѣ разработки угля и прочихъ рудъ въ означенной мѣстности, въ размѣрѣ одной пятой части капитала, затрачиваемого на оборудованіе всего дѣла и на его эксплуатацію, а также на все приобретение и сооруженія, связанныя съ этимъ дѣломъ, не исключая и желѣзно-дорожной вѣтви къ копямъ, съ тѣмъ, чтобы обусловленная пятая часть была погашаема со стороны владельцевъ акцій бывшей Фушунской компании удержаніемъ отъ нихъ всей причитающей имъ чистой прибыли ^{б) собственноручно или участіемъ в дѣлѣ представителя или отъ лица} отъ сего предприятия. 3/ Названіе "Фушунская каменноугольная компания" или 20% системы прибыли с сего предприятия, съ переходомъ копей къ новымъ предпринимателямъ, не измѣняется.

4/ Подполковнику Мадритову предоставляется право передавать Фушунскія копи новому предпринимателю, но съ условіемъ, чтобы выговоренныя настоящимъ договоромъ для владельцевъ Фушунскихъ копей права сохранили свою силу съ переходомъ дѣла къ новому предпринимателю, и чтобы владельцамъ таковыхъ акцій было предоставлено фактическое участие въ предприятии, пропорціонально принадлежащей имъ доль. 5/ Если бы по какимъ либо причинамъ Подполковникъ Мадритовъ или его преемники прекратили добываніе угля и таковое не возобновили въ теченіи трехъ лѣтъ, то вся уступленная настоящимъ договоромъ для разработки угля и рудъ мѣстность, со всеми на ней постройками и сооруженіями, переходитъ безвозмездно владельцамъ первоначальныхъ акцій, Фушунской компании.

6/ Полковнику Рубинову или купцу Тисонтаю предоставляется право свидѣться и получить свидѣнія о положеніи настоящаго предприятия.

7/ Въ случаѣ намѣренія владельцевъ акцій бывшей Фушунской компании,

передать таковыя другимъ лицамъ, то акціи эти должны быть предварительно предложены остальнымъ компаньонамъ настоящаго дѣла. Когда же отъ приобретения акцій компаньоны откажутся, то таковыя могутъ быть переданы владельцами акцій изъ русскихъ подданныхъ — только русскимъ же подданнымъ, а владельцами акцій изъ китайскихъ подданныхъ — русскимъ же или китайскимъ подданнымъ. 8/ Права владельцевъ акцій Фушунской каменноугольной компании, обусловленные настоящимъ договоромъ, переходятъ къ ихъ наследникамъ. 9/ Если бы на Фушунской каменноугольной компании оказались какіе либо долги или обязательства, сдѣланныя во время нахождения копей въ непосредственномъ вѣдѣніи означенной компании и до передачи ихъ Подполковнику Мадритову то отъ уплаты таковыхъ долговъ и исполненіе обязательствъ Подполковникъ Мадритовъ, а также его преемники освобождаются, а обязанность уплаты долговъ и исполненія обязательствъ принимаются владельцами акцій бывшей Фушунской каменноугольной компании на себя. 10/ Договоръ этотъ съ обѣихъ сторонъ хранить свято и ненарушимо; подлинному находится у Подполковника Мадритова или у его преемниковъ, а Полковнику Рубинову и купцу I-й гильдіи Тисонтаю выдаются засвидѣтельствоваанныя его копии. Къ сему договору подписанъ отставной Полковникъ Яковъ Федоровичъ Рубиновъ. Хабаровскій I-й гильдіи купецъ Тисонтай. Генеральнаго Штаба Подполковникъ Александръ Семеновичъ Мадритовъ. Тысяча девятьсотъ третьяго года, марта двѣнадцатаго дня, договоръ этотъ явленъ у меня, Іустина Федоровича Чернодубровскаго, Секретаря Портартурскаго Окружнаго Суда, въ Канцеляріи Окружнаго суда: отставнымъ Полковникомъ Яковомъ Федоровичемъ Рубиновымъ, Хабаровскимъ I-й гильдіи купцомъ Тисонтаемъ и Генеральнаго Штаба Подполковникомъ Мадритовымъ, живущими въ г. Портъ-Артурѣ, лично мнѣ известными и совершенію актовъ законную правоспособность имѣющими. При этомъ я, исп. об. Нотариуса, удостоверяю, что договоръ этотъ въ моемъ присутствіи подписанъ собственноручно ими и г. Рубиновымъ, Тисонтаемъ и Мадритовымъ.

第 81 號
三 号

Копія съ копій.

Марта перваго дня, тысяча девятьсотъ третьяго года, мы, подпи-
савшіеся: отставной Полковникъ Яковъ Федоровичъ Рубиновъ и Хаба-
ровскій I-й гильдіи купецъ Тисонтая; заключили настоящий договоръ
съ подполковникомъ Александромъ Семеновичемъ Мадритовымъ въ слѣдую-
щемъ: I/ Восьмого числа седьмой луны двадцать седьмого года
правления Императора Гуань-Сюй, чиновникомъ Вунъ-Шоу и Янъ-Джи-До
было предоставлено, съ разрѣшенія Пекинскаго Правительства, Цзянь-
Цзюнемъ Шань-Цзинской провинціи Цзянь собрать среди купцовъ капиталъ
и приступить къ разработкѣ залежей каменнаго угля, на безсрочное время
въ мѣстности Ценшинтя Фушунскаго округа, на Востокъ отъ маленькой
рѣчки, текущей съ Юга на ~~С~~ Северъ до конца границы и къ Югу и
къ Северу во все пространство угля въ предѣлахъ того же округа,
о чемъ и было объявлено Цзянь-Цзюнемъ 8-го числа 8-й луны 27-го
года царствованія Императора Гуань-Сюй жителямъ Шань-Цзинской
провинціи. Образовавшаяся для означенной цѣли компанія на акціяхъ
изъ числа десяти человекъ, приняла съ разрѣшенія Цзянь-Цзюня I-го
числа II-й луны 27-го того же года, а по русскому лѣтоисчисленію
28-го Ноября 1901 года, наименованіе "Фушунской каменноугольной
компаніи", избравъ распорядителемъ таковой отставного Полковника
Якова Федоровича Рубинова и помощникомъ ему Хабаровскаго I-й гильдіи
купца Тисонтая. Нынѣ же приобретенныя Компаніей права на разработку
во всей означенной мѣстности каменнаго угля и рудъ, а также и всѣ
находящіяся на указанной каменноугольной компаніи, сооруженія, со
всѣмъ имѣемъ инвентаремъ, ^{согласно постановленію Командованія съотдѣленія} передаются по большинству голосовъ 22-го
Февраля сего года, черезъ уполномоченныхъ тѣмъ жепостановленіемъ г.г.
Рубинова и Тисонтая, - Подполковнику Александру Семеновичу Мадритову.
2/ За это Подполковникъ Мадритовъ: а/ уплачиваетъ черезъ г.г.

1-1809

0251

правъ названнаго Товарищества на разработку Фушунскихъ копей; 2/ сообщить намъ балансъ предприятия на 1-е сего Іюня, а буде такового не имѣется, то послѣдній имѣвшійся балансъ, а равно балансъ на день приобретения Вами правъ на разработку копей Лѣсопромышленнаго Товарищества и 3/ уведомить насъ, съ какого именно времени прекратились работы на кояхъ и какія именно мѣры предприняты или предполагается предпринять для возобновленія этихъ работъ. Обращаясь къ Вамъ съ просьбою сообщить намъ означенные документы и свидѣнія чрезъ Нотаріуса В.Л.Нагурскаго, считаемъ долгомъ заявить Вамъ, что мы сохраняемъ за собою право охранять законность передачи Вамъ Лѣсопромышленнымъ Товариществомъ его правъ по эксплуатаціи Фушунскихъ копей безъ нашего на то вѣдома и согласія.

Отвѣтъ г. В.Э.Смита, а равно полученныя отъ него копии договора и балансомъ просимъ Васъ, г. Нотаріусъ, передать изъ насъ полковнику Рубинову и уплатить за нашъ счетъ г.Смиту слѣдующіе расходы за изготовленіе нотаріальной копии договора; въ случаѣ же отказа г. Смита отвѣтить на наши вопросы или нѣкоторые изъ нихъ, просимъ Васъ, по истеченіи даваемого нами на отвѣтъ недѣльнаго срока, выдать намъ въ томъ надлежащее удостовѣреніе и засвидѣтельствованную копию настоящаго заявленія. С.-Петербургъ, Набережная р. Фонтанки, д. 45. Іюня 14 дня 1907 г. Полковникъ въ отставкѣ Яковъ Федоровичъ Рубиновъ. Хабаровскій купецъ Тисонтая." - и -----
---- во 2-хъ, что выше означенное заявленіе было вручено г.Смиту, отъ котораго послѣдовалъ отвѣтъ слѣдующаго содержанія:- -----

"милостивый Государь Господинъ Нотаріусъ.

Вслѣдствіе отношенія Вашего отъ 14-го сего Іюня за №543 покорнѣйше прошу Васъ, г. Нотаріусъ, сообщить полковнику въ отставкѣ Я.Ф.Рубинову и купцу Тисонтая, что мною дѣйствительно въ Іюль мѣсяцѣ 1906 года приобретены права, принадлежащія Русскому Лѣсопромышленному Товари-

ществу на Дальнемъ Востокѣ по разработкѣ Фушунскихъ каменноугольныхъ копей. Сообщить г.г. Рубинову и Тисонтая копию моего съ Русскимъ Лѣсопромышленнымъ Товариществомъ договора и не считаю возможнымъ, такъ какъ договоръ этотъ касается исключительно насъ, составляетъ нашу коммерческую тайну, а г.г. Рубинова и Тисонтая совершенно не касается и названный договоръ могъ быть совершенъ безъ всякаго вѣдома и безъ всякаго согласія г.г. Рубиновымъ и Тисонтаямъ. Договоръ А.С.Мадритова съ г.г. Рубиновымъ и Тисонтаямъ отъ 1-го марта 1903 г. мнѣ извѣстенъ, но никакихъ балансовъ у меня не имѣется и со времени приобретения мной вышеуказанныхъ правъ ни я, ни кто либо другой отъ моего имени на Фушунскихъ кояхъ никакихъ работъ не производили. Для осуществленія моихъ правъ мною принимаются мѣры, соответствующія тому положенію, въ которомъ Фушунскія каменноугольныя копи нынѣ находятся. Гражданинъ Сѣверо-Американскихъ Штатовъ Вильямъ Эдуардовичъ. Настоящее удостовѣреніе выдается полковнику въ отставкѣ Якову Федоровичу Рубинову. 1907 года Іюня 23 дня. По реестру № 4310.- Нотаріусъ В. Нагурскій. /М.П./

И, нижеподписавшійся удостовѣряю вѣрность этой копии съ подлинникомъ ея представленнымъ мнѣ Владиміру Ивановичу Каралю и.д. Валеріана Эдуардовича Гревса С.-Петербургскаго Нотаріуса, въ конторѣ его Казанской части, по Невскому проспекту № 24 дѣйствительнымъ Статскимъ Совѣтникомъ Александромъ Георгіевичемъ Громовымъ, живущимъ Петербургской части по Александровскому проспекту № 13. При сличеніи мною этой копии съ подлинникомъ; въ послѣднемъ пометокъ, приписокъ, зачеркнутыхъ словъ и никакихъ особенностей небыло. Подлинникъ оплаченъ гербовымъ сборомъ въ одинъ рубль двадцать пять копѣекъ. 1907 годъ Ноября 26 дня. По реестру № 8810.

И.д. Нот. Караль /М.П./

Копія.

第 四 号

Я, нижеподписавшійся, симъ удостовѣряю во I-хъ, что четырнадцатаго
Іюня сего тысяча девятьсотъ седьмого года по порученію явившихся, ко
мнѣ, Виктору Ляццусевичу Нагурокому, С.-Петербургскому Нотариусу, имѣю-
щему контору, Спасской части по Невскому проспекту № 58, полковника
въ отставкѣ Якова Федоровича Рубинова и Кабаровскаго купца Тифонтая,
живущихъ Спасской части, по Фонтанкѣ № 45, сообщалъ я Американскому
гражданину Вильяму Эдуардовичу Смиту, живущему въ С.-Петербурѣ, по
набережной рѣки Мойки, д. № 81, письменное заявленіе ихъ Рубинова и
Тифонтая, слѣдующаго содержанія: -----

"На основаніи ст. Положенія о Нотар. части, покорнѣйше просимъ
Вашъ, Господинъ Нотариусъ, сдѣлать отъ нашего имени Американскому
гражданину Вильяму Эдуардовичу Смиту, проживающему въ С.-Петербурѣ,
по набережной р. Мойки, д. № 81, нижеслѣдующее заявленіе: -----

Милостивый Государь Вильямъ Эдуардовичъ. -----

Изъ разговора съ Вами и Вашими доверенными, а равно изъ письмен-
наго увѣдомленія Н.Н.Старка намъ извѣстно, что въ Іюнѣ мѣсѣ 1906 г.
Вами приобрѣтены права, принадлежащія Русскому Лѣсопромышленному Товари-
честву на Дальнемъ Востокѣ по разработкѣ Фунунскихъ каменноугольныхъ
копей въ Маньчжуріи, каковыя права перешли къ названному Товариществу
по надписи, сдѣланной подполковникомъ А.С.Мадритовымъ ~~///куудитъ//~~ на
договоръ, заключенномъ имъ, А.С.Мадритовымъ, съ нами, полковникомъ
Рубиновымъ и купцомъ Тифонтаемъ, 1 Марта 1903 г. въ Портъ-Артурѣ у
и. о. Нотариуса Чернотубровскаго. Согласно п.п. 5 и 6 означеннаго
договора, мы покорнѣйше просимъ Вашъ, Милостивый Государь, въ недѣльный
срокъ со дня полученія настоящаго заявленія: I/ за нашъ счетъ сообщить
намъ нотаріальную копію договора, заключеннаго Вами съ Русскимъ Лѣсо-
промышленнымъ Товариществомъ на Дальнемъ Востокѣ о приобретеніи Вами пра-

1-1809

0253

別紙
才
号

Милостивый государь,

Яковъ Федоровичъ

Настоящимъ письмомъ извѣщаю Васъ, что вслѣдствіе состоя-
вшейся 11-го сего марта передачи Подполковнику Мадригову права
разработки каменнаго угля и прочихъ рудъ, предоставленнаго
Китайскимъ Правительствомъ Фушунской каменноугольной Компаніи,
я признаю справедливымъ возбудить ходатайство передъ новыми
владельцами настоящаго предприятия о ежегодномъ отчисленіи въ
Вашу пользу пяти процентовъ /5% / изъ четырехъ пятыхъ чистой
прибыли, приходящейся на долю новыхъ владельцевъ, въ вознагра-
жденіе Васъ за труды по упрощенію Фушунскаго каменноугольнаго
предприятия въ русскіихъ рукахъ, по веденію переговоровъ съ
Вашими компаньонами и за прочія оказанныя по сему дѣлу услуги,
равно и за выраженную готовность помогать и впредь какъ въ
этомъ, такъ и въ другихъ предприятияхъ.

Вмѣстѣ съ тѣмъ, во исполненіе выраженной Вами просьбы и
даннаго мною обѣщанія, постараюсь оказать содѣйствіе къ
сохраненію права полученія указанныхъ 5% и семьи Вашей, т.е.
женѣ и дѣтямъ, но безъ распространенія этого права на прочее
нисходящее потомство Ваше.

Прошу принять увѣреніе въ совершенномъ почтеніи

Безобразовъ.

14 марта 1904 года.

Съ подлиннымъ вѣрно

Его Высоко-
благородію
Я.Ф.Рубинову.

Фушуньскихъ каменноугольныхъ копей, такъ какъ копи эти, хотя временно и то въ незначительномъ количествѣ, снабжали углемъ желѣзную дорогу между Чаньчунемъ и Портъ-Артуромъ, но никогда на эти копи не распространялись права означенной дороги и самия копи разрабатывались не исключительно въ ея пользу. Желѣзная дорога была лишь однимъ изъ контрагентовъ управленія копей, и послѣднія составляли и составляютъ нашу и нашихъ компаньоновъ частную собственность. По статьѣ 5 мирнаго договора Императорское Японское Правительство заявило, что права собственности русскихъ подданныхъ будутъ вполне уважены и, хотя постановленіе этой статьи касается специально Портъ-Артура, Талиенвана и прилегающихъ территорій, но мы не можемъ допустить, чтобы при заключеніи договора могли быть нарушены въ чемъ либо частныя гражданскія права подданныхъ договаривающихся державъ. Права, полученныя нами отъ Китайскаго Правительства на китайской территоріи, не могутъ оказаться беззащитными и мы смѣемъ надѣяться, что Ваше Высокопревосходительство сообразовите войти по сему вопросу въ надлежащія сношенія съ Правительствомъ Японіи. Мы полагаемъ, что полное разъясненіе дѣла и представленіе документовъ Японскому Правительству докажетъ сему послѣднему, что фушуньскія копи должны быть возвращены въ пользованіе намъ и нашимъ компаньонамъ. Хотя по договору съ подполковникомъ Мадритовымъ мы уступили право эксплуатаціи копей, но за нами сохранилось право на одну пятую часть чистаго съ нихъ дохода, а засимъ, вслѣдствіе отказа Лісопромышленнаго Товарищества отъ правъ на эти копи, таковыя должны быть признаваемы нынѣ полною нашею собственностью. Мы надѣемся, что наша претензія будетъ признана справедливою и получить удовлетворе-

ніе при благосклонномъ содѣйствіи Вашего Высокопревосходительства. Мы бы не желали предъявлять наши права на вознагражденіе къ Русскому Правительству за ущербъ, причиненной намъ уступкой нашей частной собственности, такъ какъ мы полагаемъ, что Министерство Иностранныхъ Дѣлъ признаетъ, что фушуньскія копи не должны и не могутъ входить въ число копей, перечисленныхъ въ ст. 6 Портсмутскаго мирнаго договора и окажетъ содѣйствіе къ тому, чтобы, согласно означенному договору, достигнуто было согласіе и Японскаго и Китайскаго правительствъ на признаніе за Обществомъ Фушуньскихъ копей неотъемлемаго права на означенныя копи, изыятіе ихъ изъ владѣнія лицъ, которыя ими нынѣ незаконно пользуются и возвращеніе ихъ намъ и нашимъ компаньонамъ вмѣстѣ съ имуществомъ, бывшимъ на этихъ кояхъ при захватѣ ихъ японцами.

Приложеніе: копии съ приказа Мукденскаго Цзянь-Цзюня, объявленіе его же; договора, имъ утвержденного, компанейскаго условія и договора, заключеннаго съ подполковникомъ Мадритовымъ.

вслѣдствіе фактическаго завладѣнія японцами означенными копейми и необходимости, прежде всего, возстановить принадлежащія Товариществу права на разработку копей, къ чему, какъ сказано въ письмѣ г. Старка, "и были принимаемы соотвѣтствующія мѣры", но какія именно - подполковникъ Старкъ не указываетъ. На обращенное же мною, полковникомъ Рубиновымъ, ходатайство въ Императорское Посольство въ Пекинѣ, мнѣ было объявлено, что представитель Лѣсопромышленнаго Товарищества Оберъ-Егермейстеръ Балашевъ ходатайствовалъ передъ Министерствомъ Иностранныхъ Дѣлъ о непредъявленіи отъ имени Товарищества какихъ либо претензій по сему предмету къ Японскому Правительству.

По полученіи означеннаго выше сообщенія подполковника Старка, мы обратились съ нотаріальнымъ заявленіемъ къ гражданину Сѣверо-Американскихъ Штатовъ - Вильяму Эдуардовичу Смиту съ просьбою подтвердить намъ фактъ приобрѣтенія имъ правъ отъ Русскаго Лѣсопромышленнаго Товарищества на разработку Фушунскихъ копей. Нотаріальнымъ заявленіемъ отъ 28 Іюня сего года г. Смитъ увѣдомилъ насъ, что дѣйствительно въ Іюлѣ мѣсяцѣ 1906 г. имъ приобрѣтены права, принадлежавшія Русскому Лѣсопромышленному Товариществу на Дальнемъ Востокѣ по разработкѣ Фушунскихъ каменноугольныхъ копей, что копію договора о приобрѣтеніи означенныхъ правъ онъ г. Смитъ, не считае^{сообщить намъ}тъ возможнымъ, такъ какъ это составляетъ его коммерческую тайну и насъ не касается, что никакихъ работъ на копахъ, со времени приобрѣтенія правъ на нихъ г. Смитомъ, не производится, для осуществленія же сихъ правъ принимаются "соотвѣтствующія" мѣры.

Въ такомъ положеніи нынѣ находится принадлежащее намъ, Тисонган и Рубинову и нашимъ компаньонамъ, дѣло по разработкѣ Фушунскихъ копей.

Вопросы о невыполненіи Лѣсопромышленнымъ Товариществомъ условія по расширенію работъ на копахъ и устройству желѣзнодорожной вѣтки, чѣмъ вовлекло насъ, владѣтелей акцій Фушунской каменноугольной компаніи, въ невыгодную сдѣлку, равно о правильности передачи Лѣсопромышленнымъ Товариществомъ, безъ нашего согласія, договора отъ 1 Марта 1903 г. гражданину Сѣверо-Американскихъ Штатовъ г. Смиту, объ отказѣ послѣдняго сообщ^{итъ} намъ копіи его согласенія съ Товариществомъ, - вопросы объ отчетахъ и убыткахъ отсюда проистекающихъ и пр. - подлежатъ вѣдѣнію судебныхъ мѣстъ. Но, независимо этихъ общихъ вопросовъ гражданскаго права, интересы наши находятся въ прямой зависимости отъ охраненія нашихъ, какъ Русскихъ подданныхъ, правъ, приобрѣтенныхъ, съ разрѣшенія Китайскаго Правительства, и нынѣ нарушенныхъ Правительствомъ Японскимъ или, съ его согласія, частными лицами, но внѣ предѣловъ Россіи и при такихъ исключительныхъ условіяхъ, которыя лишаютъ насъ возможности защищать эти права порядкомъ судебнымъ въ Китаѣ или Японіи.

Изъ всего вышеизложеннаго Ваше Высочайшее Превосходительство изволите усмотрѣть, что наши и компаньоновъ нашихъ права на Фушунскія копи, по винѣ Лѣсопромышленнаго Товарищества на Дальнемъ Востокѣ, не только остались безъ всякой защиты, но по винѣ одного изъ представителей названнаго Товарищества, Министерство Иностранныхъ Дѣлъ, а затѣмъ и наше посольство въ Пекинѣ не могли до настоящаго времени оказать своей под^держки и своего заступничества интересамъ русскихъ подданныхъ на востокѣ.

Нынѣ мы позволяемъ себѣ обратиться къ Вашему Высочайшему Превосходительству съ почтительнѣйшею просьбою оказать намъ содѣйствіе къ возстановленію нашихъ, русскихъ подданныхъ, а попутно и нашихъ компаньоновъ, правъ на Фушунскія копи. Мы полагаемъ, что ст. 6 Портсмутскаго мирнаго договора никоимъ образомъ не можетъ касаться

были отъ сего предприятия. 3/ Название "Фушуньская каменноугольная компания", съ переходомъ копей къ новымъ предпринимателямъ, не измѣняется. 4/ Подполковнику Мадритову предоставляется право передать Фушуньскія копи новому предпринимателю, но съ условіемъ, чтобы выговоренныя договоромъ для владѣльцевъ Фушуньскихъ акцій права, сохранили свою силу съ переходомъ дѣла къ новому предпринимателю, и чтобы владѣльцамъ таковыхъ акцій было предоставлено фактическое участие въ предпріятіи, пропорціонально принадлежащей имъ долѣ. 5/ Если бы по какимъ либо причинамъ подполковникъ Мадритовъ или его преемники прекратили добываніе угля и таковое не возобновили въ теченіе трехъ лѣтъ, то вся уступленная договоромъ для разработки угля и рудъ мѣстность, со всѣми на ней постройками и сооружениями, переходитъ безвозмездно владѣльцамъ акцій Фушуньской компании. 6/ Намъ, полковнику Рубинову и купцу Тизонтау, предоставляется право освидѣтельствоваться и получать свѣдѣнія о положеніи предпріятія. Кроме того, безъ включенія въ договоръ, условлено, чтобы копи были оборудованы въ широкихъ размѣрахъ и обязательно была бы проведена къ копиямъ желѣзнодорожная вѣтка. Эти послѣднія условія въ контрактѣ включены не были по настоянію Статсъ-Секретаря Безобразова, такъ какъ, по его увѣренію, въ этомъ нѣтъ надобности, потому что тотчасъ по принятіи имъ предложенныхъ нами условій и еще до заключенія договора съ подполковникомъ Мадритовымъ, именно 1 Февраля 1903 г. былъ составленъ планъ и смета предположенныхъ работъ по расширенію копей и сдѣланы надлежащія изысканія по проведенію желѣзнодорожной вѣтки къ копиямъ и хотя договоръ былъ заключенъ нами съ подполковникомъ Мадритовымъ, но дѣйствительнымъ хозяиномъ и распорядителемъ дѣла

являлся Статсъ-Секретарь А. М. Безобразовъ, а затѣмъ съ Іюня мѣсяца того же года "Русское Лѣсопромышленное Товарищество на Дальнемъ Востокѣ", уполномоченнымъ котораго являлся сначала Егермейстеръ И. П. Балашовъ, а засимъ, съ Февраля мѣсяца 1904 г., состоящій при Намѣстникѣ и случившій въ то же время въ Лѣсопромышленномъ Товариществѣ подполковникъ Н. Н. Старкъ. Передача правъ по договору 1 Марта 1903 г. Русскому Лѣсопромышленному Товариеству совершена была подписью, сдѣланною подполковникомъ Мадритовымъ 30 Іюля того же года въ С. Петербургѣ у нотариуса Арцыбушева.

Дѣятельность Товарищества въ теченіе 1903 г. была ничтожна, работы на копияхъ не расширялись и къ устройству вѣтки не приступалось, но съ Февраля мѣсяца 1904 г. работы нѣсколько оживились и уголь представлялся какъ на желѣзную дорогу, такъ и войскамъ, оптомъ и въ розницу, но къ устройству вѣтки все-таки приступлено не было. Затѣмъ съ 7 Іюля того же года Товарищество передало копи въ полное распоряженіе купца Моисея Акимовича Гинсбурга, желая этимъ съ началомъ войны вообще устранить свою дѣятельность по эксплуатаціи копей.

Наши попытки получать точныя свѣдѣнія о положеніи дѣлъ Товарищества оставались безъ успѣха и только въ нынѣшнемъ году Н. Н. Старкъ сообщилъ намъ балансъ Лѣсопромышленнаго Товарищества по Фушуньскимъ каменноугольнымъ копиямъ на 1-ое Января 1906 г. и подтвердилъ письменно, ранѣе дошедшія до насъ свѣдѣнія, что 7 Іюля 1906 г. Русское Лѣсопромышленное Товарищество на Дальнемъ Востокѣ передало свои права на эксплуатацію Фушуньскихъ копей проживающему въ С. Петербургѣ американскому гражданину Смитъ. Къ изложенному въ письмѣ отъ 11 Іюня 1907 г. Н. Н. Старкъ добавилъ, что на Фушуньскихъ копияхъ работы велись до самой сдачи Мукдена японцамъ, послѣ чего работы болѣе не возобновлялись.

пайщиковъ были приняты китайскій подданный Гунь-цзи-танъ и я, полковникъ въ отставкѣ Рубиновъ, при чемъ мы внесли въ основной капиталъ товарищества 22,000 ланъ серебра, въ томъ числѣ Гунь-цзи-танъ пять и я, Рубиновъ, 17 тысячъ ланъ. Образованный такимъ образомъ общій капиталъ въ 45 тысячъ ланъ серебра былъ раздѣленъ на 45 паевъ по 1,000 ланъ каждый пай и общество пайщиковъ приняло названіе: "Общество Фушунскихъ каменноугольныхъ копей."

О прибавленіи русскаго пайщика и расширеніи каменноугольнаго предпріятія донесено было подлежащимъ китайскимъ властямъ. Договоръ между пайщиками написанъ въ 14 экземплярахъ, изъ которыхъ четыре / за №№ 1-4./ представлены на храненіе мѣстнымъ властямъ / въ управленіе Мукденскаго Цзянь-Цзяня, въ Дипломатическое Бюро, Мукденскому Военному Комиссару и Комиссару Министерства Иностранныхъ Дѣлъ /, остальные десять находятся на рукахъ у каждаго изъ участниковъ компаніи.

1-го Декабря 1901 г. участники компаніи избрали меня, полковника Рубинова, главнымъ распорядителемъ всего дѣла, а меня, Тифонтая, и китайскаго подданнаго Чу-хуа-туна помощниками распорядителя, съ предоставленіемъ намъ, въ защиту правъ и интересовъ компаніи, ходатайствовать въ Государствахъ Россійскомъ и Дайцинскомъ на правахъ полномочнаго довереннаго и представителя Общества.

Фушунскія каменноугольныя копи находятся въ 40-45 верстахъ на востокъ отъ г. Мукдена, въ долинѣ рѣки Хунхэ Фушунскаго округа, ^{ок} участкомъ отведенный компаніи для разработки угля, имѣетъ длину 20 верстъ, въ ширину - все протяженіе каменноугольнаго пласта въ предѣлахъ Фушунскаго округа, общей площадью болѣе 200 квадратныхъ верстъ.

Первоначально, за неимѣніемъ достаточныхъ оборотныхъ средствъ, разработка копей производилась примитивнымъ китайскимъ способомъ и добываемый уголь доставлялся въ г. Мукденъ и, между прочимъ, на желѣзную дорогу.

Въ началѣ 1903 г. на Дальній Востокъ прибылъ съ особыми полномочіями Статсъ-Секретарь А. М. Безобразовъ. Онъ подробно ознакомился съ Фушунскими копами и предложилъ мнѣ, полковнику Рубинову, передать ему копи для эксплуатаціи. Нами выработаны были условія и между нами, Рубиновымъ и Тифонтаемъ, съ одной стороны и указаннымъ со стороны Статсъ-Секретаря Безобразова, состоящимъ въ его распоряженіи подполковникомъ А. С. Мадритовымъ съ другой 1 Марта 1903 г. былъ заключенъ договоръ, явленный 12 того Марта у исполняющаго обязанности нотаріуса Секретаря Портъ-Артурскаго Окружнаго Суда.

Сущность означеннаго договора заключается въ слѣдующемъ: 1/ приобретенныя обществомъ Фушунскихъ каменноугольныхъ копей права на разработку каменнаго угля и рудъ, а также и всѣ, находящіяся на указанной мѣстности и принадлежащія Фушунской каменноугольной компаніи, сооруженія, со всѣмъ имѣемымъ инвентаремъ, передаются, подполковнику Мадритову: 2/ За это подполковникъ Мадритовъ: а/ уплачиваетъ участникамъ Фушунской каменноугольной компаніи - пятьдесятъ тысячъ рублей единовременно, при заключеніи договора, въ возмѣщеніе понесенныхъ ими расходовъ на приобретение фушунскихъ копей; б/ предоставляется владельцамъ акцій бывшей фушунской каменноугольной компаніи участіе въ дѣлѣ разработки угля и прочихъ рудъ въ означенной мѣстности въ размѣрѣ одной пятой части капитала и в/ соответственно доли участія въ дѣлѣ, предоставляется имъ одна пятая часть, или 20% съ чистой при-

別紙
奉
呈

Господину Министру Иностранних Дѣлъ

Отставного полковника Якова Федоровича
Рубинова и Хабаровскаго I-й гильдіи
купца Тисонтая, жительствовавшихъ, первый
въ г. Благовѣщенскі и второй въ г. Хаба-
ровскі, а временно оба въ С. Петербургѣ,
по Набережной рѣки Фонтанки, д. № 45.

Преміе.

7 Сентября 1901 г., а по китайскому лѣтосчисленію 7 числа 8-й
луны въ 27 царствованія Гуань-Ся, китайскіе подданные Вэнь-Шоу и
Янь-Чи-Ла заявили ходатайство Мукденскому Цзянь-Цзюню Цзену о раз-
рѣшеніи имъ собрать складочный капиталъ для разработки каменноуголь-
ныхъ копей въ Цянь-шань-тай и въ другихъ мѣстахъ, причѣмъ внесли
10,000 ланъ серебра въ военный фондъ. Командированнымъ Цзянь-Цзюнемъ
должностныя лица осмотрѣли и отмежевали названнымъ Вэнь-Шоу и Янь-
Чи-Ла указанный ими участокъ земли на востокъ отъ рѣчки въ мѣстности
Цянь-шань-тай, о чемъ тогда же Цзянь-Цзюнемъ было донесено Его
Величеству Китайскому Императору, сообщено подлежащему вѣдству и
объявлено во всеобщее свѣдѣніе. По полученіи отвѣта, для разработки
копей составлено было общество съ основнымъ капиталомъ въ 23 тысячи
ланъ серебра, состоявшее, кромѣ первоначальныхъ заявителей, изъ меня,
русскаго подданнаго купца Тисонтая, и четырехъ китайскихъ подданныхъ.
Произведенныя развѣдки показали присутствіе громаднхъ залежей угля,
почему рѣшено было расширить дѣло, увеличивъ основной капиталъ.

I-й числа II луны въ 27 годъ царствованія Гуань-Ся, въ число

別紙第七号

執照

奏辦撫順煤礦總公司 為發給股票事照得
 本公司報勅兵部銀部兩部請
 軍部堂增 奏准開辦千山台南北小河以東等處煤
 礦所有河東一帶地方自應招商開辦集商股相履
 發給股票以濟市平銀壹仟兩作為一股本股發股票
 壹張股指壹扣除將各項章程登報如有未備查外理
 合將股票息摺發給收執以憑查驗而昭信守
 至股票者

光緒二十七年十一月 初一日給完 一收執


1-1809

0260

別紙
第八号

此券向本公司取
和國通商銀行

設東京府東區... 司理人姓名



立合... 株式會社
昭和... 年... 月... 日...
...

1-1809



Независимо всего вышесказанного, симъ объявляется жителямъ ближайшихъ мѣстностей слѣдующее:

Жители не должны пренятствовать производству вышеупомянутыхъ работъ и безразсудно затѣвать ссору, такъ какъ открытіе угольныхъ копей дастъ новый источникъ государственнаго дохода, что въ настоящее время чрезвычайно важно. А если бы нашлись банды негодяевъ, которые стали бы сопротивляться и не допускать до работъ, то мѣстнымъ властямъ предписывается немедленно принимать рѣшительныя мѣры къ поимкѣ и наказанію виновныхъ.

Въ свою очередь вышепоименованные предприниматели обязаны также строго держать своихъ рабочихъ и слѣдить за тѣмъ, чтобы не было насилій и безпорядковъ и торговля производилась по справедливости. А въ противномъ случаѣ, жители могутъ жаловаться мѣстнымъ властямъ, которымъ предписывается немедленно разбирать и строго наказывать виновныхъ

Правленія Гуанъ-ся 27-й годъ, 8-е число 8-й луны.

Переводилъ съ китайскаго Дѣйствительный Статскій Советникъ П. Поповъ 24-го Іюня 1907 г. Подлинность предстоящей подписи Дѣйствительнаго Статскаго Советника Попова, Профессора китайскаго языка факультета восточныхъ языковъ Императорскаго С.-Петербургскаго Университета, бывшаго Перваго Драгомана Россійской Императорской Миссіи въ Пекинѣ Первый Департаментъ Министерства Иностранныхъ Дѣлъ симъ, съ приложеніемъ казенной печати удостовѣряетъ. С.-Петербургъ Іюня 26 дня 1907 года. Вице-Директоръ. Подпись за Дѣлопроизводителя. Подпись № 3687./М.П./.-

Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю вѣрность этой копіи съ подлинникомъ ея, представленнымъ мнѣ, Виктору Люцишевичу Нагурскому, С.-Петербургскому Нотариусу, въ конторѣ моей Спасской части по Невскому просп. въ домѣ № 52. Старобѣльскимъ Мѣщаниномъ Борисомъ Марковичемъ Шаповаловымъ, живущимъ Московской части по Фонтанкѣ № 68. При сличеніи мною этой копіи съ подлинникомъ, въ послѣднемъ поправокъ, подчистокъ, зачеркнутыхъ словъ, приписокъ, и никакихъ особенностей не было. 1907 Іюня 28 дня. По реестру № 4443. Подлинникъ гербовымъ сборомъ не оплаченъ. Копія гербовымъ сборомъ не оплачивается на основаніи 63 ст. Уст. о Гербовомъ сборѣ. Нотариусъ В. Нагурскій. /М.П./.-

別紙
中
文

ОБЪЯВЛЕНІЕ.

По Высочайшему повелѣнію Цзянь-цзюнь Мукденской провинціи, Управляющій Военнымъ и Уголовнымъ Министерствами, Управляющій дѣлами Мукденскаго Градоначальства, Военный Министръ, Второй Президентъ Прокурорскаго Приказа, Мукденскій Генераль-Губернаторъ и Завѣдующій Интендантствомъ, пониженный на 2 степени съ оставленіемъ въ должности и затѣмъ разжалованный съ разрѣшеніемъ временно остаться въ должности Мукденскаго Цзянь-цзюня Цзэнъ,

Объявляетъ для всеобщаго свѣденія.

Вслѣдствіе просьбы чиновниковъ Вэнъ-шоу и Янъ Чжи-лэ, и Ванъ Чэнъ-яо о разрѣшеніи имъ открыть разработку каменно-угольныхъ копей въ мѣстности Цзянь-шань-тай, командированными мною чиновниками произведенъ осмотръ и установлена границей между ними небольшая рѣчка, пересекающая мѣстность въ направленіи съ юга на сѣверъ, отъ которой на востокъ отведено подъ работы Вэнъ-шоу, а на западъ работаетъ Ванъ Чэнъ-яо. Такое разграниченіе подписано съ обоюднаго согласія обоими заинтересованными сторонами.

Приказавъ вышеупомянутымъ предпринимателямъ отправить въ копи для надлежащей разработки ихъ и вмѣстѣ предписать: Чэн-дэ"скому Уѣздному Начальнику и Фушунь"скому чиновнику оказывать имъ покровительство и поддерживать порядокъ, а обо всемъ этомъ донести Его Величеству и сообщить подлежащему вѣдомству.

а съ № 5 и по № 14 находятся на руках у каждого изъ участниковъ. № 7-й долженъ находиться у Чжу Хуа-дуна.

ПРИМѢЧАНІЕ:

Настоящее условіе съ 4 акціями передано въ собственность фирмѣ Хэ Шанъ-тунъ.

Переводилъ съ китайскано Дѣйствительный Статскій Советникъ П. Поповъ 27 Іюня 1907 г. На подлинномъ китайскомъ текстѣ приложены печати Мукденскихъ Дзянь-Дзюнь и Градоначальника. Подлинность предстоящей подписи Дѣйствительнаго Статскаго Советника Попова Профессора китайскаго языка Факультета восточныхъ языковъ Императорскаго С.-Петербургскаго Университета, бывшаго Перваго драгомана Императорской Мисси въ Пекинѣ, Первый Департаментъ Министерства Иностранныхъ Дѣлъ симъ, съ приложеніемъ казенной печати удостовѣряетъ. С.-Петербургъ, Іюня 26 дня 1907 года. Вице-Директоръ Коростовецъ. За Дѣлопроизводителя /подпись/ /м.п./ № 3688.

Я, нижеподписавшійся, удостовѣряю вѣрность этой копіи съ подлинникомъ ея, представленнымъ мнѣ, Виктору Люцишевичу Нагурскому, С.-Петербургскому Нотариусу въ конторѣ моей Спасской части по Невскому пр. въ домѣ № 52. Старобѣльскимъ Мѣщаниномъ Борисомъ Марковичемъ Шановаловымъ, живущимъ Московской части по Фонтанкѣ № 68. При сличеніи мною этой копіи съ подлинникомъ въ послѣднемъ поправокъ, подчистокъ, зачеркнутыхъ словъ, приписокъ и никакихъ осо-

бенностей не было. 1907 года Іюня 30 дня. По реестру № 4455. Подлинникъ гербовымъ сборомъ не оплаченъ. Копія гербовымъ сборомъ не оплачивается на основаніи 63 ст. Уст. о Гербовымъ Сборѣ. Нотариусъ В. Нагурскій. /м.п./.-

Что касается пошлинъ, то ихъ опредѣлили вносить мѣстной манетой по 5 дѣао съ каждой сотни дѣао и по 2 дѣао вѣсового сбора.

Послѣ этого было составлено Общество съ основнымъ капиталомъ въ 23.000 ланъ серебра. Участниками Общества явились купцы Тифонтай, Чжу Хуа-дунъ Чжао Цзы-сю, Хэ Цзы-янъ Го Чжэнь-жанъ, Юй Чэнь-цзю и чиновники Вэнь-шоу и Янь Чжи-лэ

Въ настоящее время развѣдки показали присутствіе громадныхъ залежей угля, а потому для увеличенія налоговъ и сборовъ и расширенія источниковъ военнаго фонда, рѣшено расширить дѣло, увеличивъ основной капиталъ.

Есть двое желающихъ войти компаніонами въ Общество: нѣкто Гунъ-цзи-танъ и русскій, хорошо знающій рудное дѣло полковникъ въ отставкѣ Рубиновъ. Первый желаетъ внести 5.000, а второй 17.000 ланъ серебра, что съ прежнимъ капиталомъ въ 23.000 составитъ всего 45.000 ланъ серебра.

Настоящимъ общимъ собраніемъ, на основаніи правилъ Общества, рѣшено принять вышеупомянутыхъ лицъ въ компанію Общества. А собранный капиталъ въ суммѣ 45.000 ланъ серебра, раздѣлить на 45 паевъ, по 1.000 ланъ каждый пай/акція/

Участникамъ Общества разрѣшается продавать свои акціи, но при этомъ на нихъ должны обозначены имена и фамиліи свидѣлей и поручителей и собственноручная подпись акціонера. Но Вэнь-шоу и Янь Чжи-лэ, какъ учредители Общества, во избѣженіе перемѣнъ, не могутъ продать свои акціи постороннимъ лицамъ, а только лишь участникамъ Общества.

Теперь же, настоящимъ собраніемъ рѣшено назвать основанное Общество: "Общество Фушунскихъ каменноугольныхъ копей" Рѣшеніе вопросовъ касающихся Общества, а также выработка правилъ по эксплуатаціи копей, возлагаются на выборныхъ отъ Общества.

О прибавленіи русскаго пайщика и расширеніи каменноугольнаго предпріятія доносится Мукденскому Цзянь-цзюню Цзэну и Фуиню Юй.

Настоящій договоръ пишется въ 14 экземплярахъ съ обозначеніемъ именъ и фамиліи всѣхъ пайщиковъ за собственноручными подписями ихъ. За исключеніемъ экземпляровъ договора, посылаемыхъ Цзянь-цзюню, а также оставляемыхъ въ управленіи Общества, остальные экземпляры раздаются по одному каждому владельцу акцій, какъ документъ.

Фамиліи владельцевъ акцій и ихъ собственноручныя подписи слѣдующія: Вэнь-шоу, Янь Чжи-лэ, Чжу Хуа-дунъ, Чжао Цзы-сяо, Хэ Цзы-янъ, Го Чжэнь-жанъ, Юй Чэнь-дзю, Тифонтай Яковъ Рубиновъ и Гунъ Цзы-танъ.

Правленія Гуанъ-суй 27-й годъ, 1-е число 11-й луны.

РЕЗОЛЮЦІЯ:

Настоящаго договора всего пронумерованныхъ 14 экземпляровъ съ 1-го по 14 №.

- | | |
|-----|------------------------------------------------|
| № 1 | хранится въ Правленіи Мукденскаго Цзянь-цзюня. |
| № 2 | " " Дипломатическомъ бюро. |
| № 3 | " у Мукденскаго Военнаго Коммисара. |
| № 4 | " у Коммисара Министерства Иностранныхъ дѣлъ. |

別紙第十号

ДОГОВОРЪ № 7

1-го числа II луны въ 27 годъ царствованія Гуань-сяи мы, нижеподписавшіеся: имѣющій павлинное перо и кандидатъ на должность Уѣднаго Начальника / по фамили/ Венъ-шоу и кандидатъ на должность помощника Окружнаго Начальника Янь Чжи-лэ и китайскіе пайщики купцы: Тиэнтай, Чжу Хуа-дунъ, Чжао Цзы-сяо, Го Чжэнь-юань, Юй-Чэнь-дзіу, Хэ Дзы-янъ, Гуъ Цзи-танъ и русскій пайщикъ Яковъ Рубиновъ заключили настоящій договоръ въ нижеслѣдующемъ.

7-го Сентября 1901 года, а по китайскому счисленію 7-го числа 8-й луны въ 27 годъ царствованія Гуань-сяи, было подано ходатайство Мукденскому Командующему Войсками / Цзянь-цзюнь / съ просьбой разрѣшить открыть разработку каменноугольныхъ рудниковъ въ Цянь-шань-таѣ и др. мѣстахъ въ районѣ Фушунь"я съ предложеніемъ внести въ казну 10.000 ланъ серебра.

На такую просьбу Командующій Войсками / Цзянь-цзюнь / Цзэнъ изъявилъ свое согласіе и, принявъ предложенныя 10.000 ланъ серебра, совмѣстно съ Мукденскимъ Фу-инъ"омъ Юй до-несъ объ этомъ на Высочайшее Имя.

А командированными чиновниками былъ произведенъ осмотръ и размежеваніе угольныхъ мѣсторожденій. Границей установлена небольшая рѣчка въ мѣстности Янь-бо-пу, протекающая въ направленіи съ юга на сѣверъ. Мѣстность на западъ отъ этой рѣчки отведена чиновнику Ванъ Чэнь-яо, а восточная часть отведена чиновникамъ Венъ-шоу и янь Чжи-лэ.

объявление для всеобщаго свѣденія, считаю долгомъ предложить означеннымъ чиновникамъ-предпринимателямъ принять настоящій приказъ къ немедленному исполненію и въ скорости приступить къ работамъ.

При этомъ поля, огороды, жилища и кладбища частныхъ лицъ должны быть обходимы или же покупаемы и отнюдь не должны быть захватываемы силою или разрушаемы.

Такъ какъ границы обозначены ясно, то, во избѣженіе споровъ, каждый изъ предпринимателей долженъ разрабатывать только свои копи и не дѣлать захватовъ.

Въ виду того, что дѣло касается взиманія государственнаго налога съ копей, о немъ слѣдуетъ немедленно представить всеподдѣйшій докладъ и сообщить /подлежащему вѣдомству/, а потому предприниматели съ одной стороны принимаютъ /по исполненіи сего/ надлежащее рѣшеніе, а съ другой - составляютъ подробныя правила и, испрашивая о днѣ начала взиманія налога, представляютъ ихъ на наше разсмотрѣніе для доклада и сообщенія. Вмѣстѣ съ симъ они доносятъ о днѣ открытія работъ. Настоящій приказъ выдается Ванъ-шоу и Янь Чжи-лэ.

Царствованія Гуанъ-Суй"я 27-й годъ, 7-е число 8-й луны.

Съ китайскаго переводилъ дѣйствительный Статскій Советникъ П. Поповъ. 24 Іюня 1907 года. Поправку считать дѣйствительною. П. Поповъ. Подлинность предстоящихъ подписей дѣйствительнаго Статскаго Советника Попова, Проес-

сора китайскаго языка факультета восточныхъ языковъ Императорскаго С.-Петербургскаго Университета, бывшаго Перваго Драгомана Россійской Императорской Мисси въ Пекинѣ. Первыи Департаментъ Министерства Иностранныхъ Дѣлъ симъ, съ приложеніемъ казенной печати удостоверяемъ. С-тъ Петербурга Іюня 26 дня 1907 года. Вице-Директоръ Коростовець. За Дѣлопроизводителя/подпись/ /М.П./ № 3686.

Я, нижеподписавшійся, удостоверяю вѣрность этой копии съ подлинникомъ ея, представленнымъ мнѣ, Виктору Люциушевичу Начурскому, С.Петербургскому Нотариусу, въ конторѣ моеи Спасской части, по Невскому просп. въ домѣ № 52, Старобѣльскимъ мѣщаниномъ Борисомъ Марковичемъ Шоповаловичъ живущимъ Московской части по Фонтанкѣ № 68.

При сличеніи мною этой копии съ подлинникомъ, въ послѣднемъ поправокъ, подчистокъ, зачеркнутыхъ словъ, приписокъ и никакихъ особенностей не было. 1907 года Іюня 30 дня. По реестру № 4452. Подлинникъ гербовымъ сборомъ не оплаченъ. Копія гербовымъ сборомъ не оплачивается на основаніи 68 ст. Уст. о гербовомъ сборѣ. Нотариусъ В. Нагурскій. /М.П./.-

第 10 号

ПРИКАЗЪ

Мукденскаго Цзянь-цзюня Цзэна.

Вслѣдствіе просьбы кандидата на должность Уѣзднаго начальника Венъ-шоу, кандидата на должность Помощника Ок-ружнаго Начальника Янь-Чи-лэ и кандидата-же на должность Секретаря Областнаго Управленія Ванъ Чэнь-яо о разрѣшеніи имъ собрать складочный капиталъ для разработки каменноугольныхъ копей въ Цянь-шань тай"ѣ и другихъ мѣстахъ, съ пожертвованіемъ каждымъ изъ нихъ по 10.000 ланъ въ военный фондъ командированные мною чиновники, вмѣстѣ съ означенными чиновниками-предпринимателями, отправившись въ указанное мѣсто для осмотра и размежеванія и, принявъ за границу текущую тамъ съ юга на сѣверъ небольшую рѣчку, отвели/земли/ на востокъ отъ нея для разработки Венъ-шоу и янь Чи-лэ, а на западъ отъ нея - Ванъ Чэнь-яо. Согласно донесенію командированныхъ чиновниковъ Лю Чао-гоу и Сянъ-дэ, ими взяты съ предпринимателей добровольныя расписки въ томъ, что они содланы на таковую разработку.

Принимая во вниманіе, что пожертвованныя каждою изъ сторонъ по 10.000 ланъ серебр., уже внесены полностью, конечно надлежитъ разрѣшить имъ приступить къ разработкѣ.

Сообщивъ Синъ-цзинскому Фу-ду-туну и приказавъ Чэнь-дэ-скому Уѣздному Начальнику и Фу-шунь"скому чиновнику оказывать покровительство и поддерживать порядокъ и издавъ

40

第17回

明治 年 月

日 起 日 發 遣

生

第一課

主任

常原

毛

如

林 士 六

奉天 加三縣 經 事

六四回

奉天鐵道總局第四系車段

鐵道會社一様 檢石及介致ニ付

外務省

納金ヲ受テ一ノ古ノ款ニ地方ノ般務ニ

充テテキリトナリ居ルニ其地方ノ般務ニ

目下爲キニ在リ中至公ニ可油ニ意旨

リヲシ

治州 鐵道 檢石

電送第 1080 號
明治 年 4 月 21 日 發 遣

1-1809

0270

第17門

片上呈

次及

41

機密 第1119號

明治四十一年五月七日發受

機密 十三號

政務局

第一課

出

撫順炭輸出税率

本件：關於別紙通り、北京林公
使一稟申致置候間、右御案知
相成度此段申道候、敬具
明治四十一年四月三十日

在牛莊日本領事館事務代理
領事官補 高橋 出目

日本領事館

外務大臣 伯爵 林 董 殿

在牛莊日本領事館

1-1809

0271

諸極密并十九字字

撫順炭輸出税率之関スル件

清國海關税率、依レハ清國産石炭ノ輸
 出税ノ二種ニ區別シ湖上安徽廣西及開平
 炭ニ限リ一噸ニ付一匁トシ其他ヲ三匁ト規定セ
 ルニ付テハ撫順炭ハ之ト境遇及販路ノ同クセ
 ル開平炭ニ比シ現時三倍ノ輸出税ノ課セラ
 格リ頗ル困難ヲ感シ居ル趣ニテ右ノ開平
 炭等ト同様一匁一匁ノ税率ヲ適用セラル
 様致度旨三井物産右名倉所當地支店
 ヲリ別紙甲号寫ノ通リ願出ノ次第有之候條
 委細右ニ御案知ノ上可然御詮議相成度
 此致及稟申候敬具

在生井日本領事館

明治四十一年四月廿九日

右牛在日領事館事務代理

領事官高橋清一

特命全權公使男爵林權助殿

此ニ三井物産右名倉所御案知ノ通リ撫順炭一手販賣
 方満鉄ヲ暗黙ニ依地ヲ受テ居候尚青島輸
 出ノ石炭ハ兩三年來一匁一匁ノ取扱ヲ受テ居レ
 ニテ右ノ開平炭亦然稅司ヨリ右稅務司ニ別紙乙
 号ノ通リ別紙到達シ居ル旨昔地本邦海關實
 行ノ内示者ニ候旨御案考査申候候



月日

明治四十一年四月念八

三井物産合名會社

牛莊支店

大日本帝國領事館事務代理

領事官補 高橋清一殿

拜啓陳者

南滿鐵道株式會社經營ニ係ル撫順炭坑ニ事
 業着々整頓致候ニ付テハ採炭高進ニ増加
 致候間販路擴張ノ爲メ各方面ニ輸出ノ計劃中
 ニ有之候處清國現行海關稅率ノ按スルニ清國
 産石炭輸出稅ヲ二種ニ別テ湖北安徽廣西及閩
 平産ニ限リ一噸ニ自一匁トシ其他ヲ三匁ト致居候

在牛莊日本領事館

御兼知ノ通り撫順炭ト境邊ニ販路ノ同ク閩
 平炭ヨリ三倍ノ輸出稅ヲ課セラル、事ハ非常ニ
 苦痛ヲ感スル所ニシテ今マ大ニ祭辰ミツ、アル際ニ斯
 ル打撃ヲ受ケハ獨リ撫順炭輸出ノ萎縮ニ止
 ヲ延テ我商權ノ伸長ニ多大ノ影響ヲ及ボス
 候ト憂慮四顧在候如何ナル事情ノ下ニ特ニ四
 種ニ限リ輕率ノ課稅セラル、モノニヤ兼知傳使ハ
 一トモ撫順炭之右四種炭同等ノ待遇ヲ受ルル希
 望ニ堪ガ候

撫順炭積出ニハ今日、処大連ニ於テナスヨリ之當
 牛莊港ニ於テ之ヲナス方便宜ニ有之候ハ船脚
 十八匁已下ノ船脚ハ昔分牛莊ニ積出ス方針
 有之候而シテ船脚十八匁已上ノ汽船ヲ必要トセ

ル換言スレハ東洋各沿岸已外、他、運炭スルハ
尚多少ノ日子ヲ要スルハ撫順炭ノ輸出、當今
當港ノミト被存候同炭ハ如斯當港ト密接、
關係ヲ有スル次第ニ方之候ハ既ニ南滿洲鉄
道株式會社ヨリ申請中ト、被察候トテ輸出
税率輕減方其節ノ責當ヨリ御交渉被成下
度奉懇願候

先ハ右願用迄得貴意度如斯御座候敬具

在牛莊日本領事館

155

地の家
純平



平

												明治	同
												年	年
												月	月
												日	日
												發	草
												電送第 1426 號 明治 年 月 日 發	

平のハ号
 純平
 田中
 外務省

加藤
 林

山
 本
 山

1-1809

0275

44

第17回

取調 會計 人事 通商 政務

大臣 董

No. 1638

加藤 林

林 加藤 務 大 出 加藤 浩 係 事

奉天炭 早一奉五五各炭 七、三、三〇

キヨク 杭 局ハ目下煙台本溪湖牛心台
等ノ石炭ニ對シ山元賣價百分ノ一、
杭ヲ採シ居リ但シ本溪湖炭ノ賣價
ハ實際賣價ノ五分ノ三内外ニシテ牛心
台亦同シ

45

第14

明治
年 年
月 月
日 日
發 起
進 帶

止

第一課主任

抄印

電送第1346號
明治4年一月一日發 2時0分發

煙台日本海關
支那總領事館
二號三號
付

李天

加三勝總領事

林古之

第五〇號
卷之四三第
件打込
之
詳報
已
中
日
領
事
官
印

外務省

第 17 門

支 款

46

明治 年 月 日
同 年 月 日
日 起 草
日 發 遣

止

第一課

主任

局長

電送第 1387 號
明治 41 年 1 月 4 日 午後 5 時 20 分 發

立 止
本 野 大 供

林 大 少

第五一號
左ノ如シ後ニ際能成ニ迫ルベシ

外務省

北京議定書ニ依リ鐵道附

屬鐵道ニ既開未開ニ拘ラスニテ

詳細ニ三單種々向柱ニテ記スル

又東清鐵道續行四條ニ依ルニ

石炭採掘ニ付ニ精製ヲナスベキ

トナリ居リ是迄日清系ニ於テ

極儀アリ右ノ如シ而シテ

本野大

大
多、朝、各、之、依、之、路、不、二、お、手
撫、吹、上、在、玩、巨領、國、シ、隣、之、出、、權、之、
画、ア、大、者、之、由、、二、白、此、路、之、度、、一、亦、
造、ア、機、上、シ、撫、吹、、用、、是、、玩、
南、ニ、、納、、税、、額、、ヲ、、正、、大、、開、、接、、ニ、、右、、差、
玩、ニ、、討、、ニ、、知、、持、、利、、ヲ、、七、、貫、、迄、、シ、
他、日、、金、、不、、似、、リ、、少、、考、、、、向、、款、、ヲ、、提、
起、、ニ、、来、、ル、、毛、、一、、清、、也、、例、、ヲ、
外務省
故、障、、ノ、、来、、ル、、ハ、、キ、、違、、フ、、社、、能、、シ、、同、、カ、
右、得、、以、、來、、ト、、リ、、認、、念、、ル、、惟、、也、
積、約、、四、、系、、ニ、、依、、リ、、我、、納、、金、、一、、千、、金、
款、ニ、、地、、人、、諸、、地、、ニ、、お、、テ、、採、、掘、、ス、、ル、、石、
炭、ニ、、討、、シ、、細、、計、、ル、、税、、額、、ヲ、、起、、ス、、ル、
規、、定、、ス、、ル、、事、、ト、、ナ、、リ、、以、、テ、、加、、差、、札、、等、、ヲ、、二、、管、、制、、シ、
諸、知、、事、、ハ、、税、、額、、の、、出、、入、、ヲ、、ナ、、タ、、ル、、ニ、
清、也、、ニ、、目、、下、、煙、、墨、、本、、漢、、胡、、牛、

心算考、石炭の討て出元
を便百ふ、一、税ヲ課し居
り又本溪湖を、其便に
二、際を便ノ出、三、内、
物ノ出、
回者、
ク、
エ、
外務省
テ、
定、
考見

1-1809

0280

47

大臣 陸 次官 陸
政務 通商 人事 會計 取調

No. 一七三
情

京都府 京都府 京都府
林外務大臣 本野大使

第七二号
貴電第五一号 案の復録を以て
炭礦、件 案の詳細を示す旨
了承すは 際接便煙臺問題に決
定せらるゝコトハ 至極良策ナリ
然レモ 本社の炭礦、本溪湖ト性
質ヲ異ニスルモノト 認ム依テ 山元
炭價等ノ 三内外ニ 兩極ナルコト

「高出ニアラサレハ」 東清鉄道條約
ニ 基キ 清國ニ 於テ 清國臣民ニ 課
スル 稅額 高カラサル 程度ニ 於テ
課稅ヲ 承認スヘキコトハ 至極 誠定
甚、精神 ナレバ 山元 稅ニ 止テ 特
ニ 輸出 稅ヲ 免セラレンコトヲ 望ム者
ニ 全ク 輸出 稅ヲ 免セラレ、コト 能ハ
ル 場合ニ 於テ、 外國人カ 輸出 稅
炭、創 設ニ 最モ 親、 輸出 稅ヲ
課セラレ、 標定メタシ 元來 清國

1-1809

028:

松平に由承旨、如く所定、輸せしる
止る趣、之は輸せしる額、定まる
か故、其額、米穀、輸せしる、奨励、
趣、之、及、之、り、之、協山、元、資、價、并
に、輸せしる、之、より、之、あり、之、分、之、
額、米、穀、輸せしる、奨励、之、趣、之、り、
其、具、之、所、定、輸せしる、之、并、之、美、清
兩國、留、手、代、之、條、約、之、均、兩、治、之、
協定、之、ラ、レ、ン、コ、ト、ヲ、注、ム

48

明友報

筆

第17門

明治 年 月 日
同 年 月 日
日 起 草
日 發 遣

止

第一課

電送第 1429 號
明治 6 年 5 月 18 日

本局の便

引込六号

貴電七二號に答へたノ事ヲ後悔

信託に付(ラレタシ

貴電中

以元貴便五ノ三由か云極メラハ

フハ適者ニアラサルヲシトアルニ誤解ナラン

本局の便ノ事便ハ實際ノ事便ノ

五分ノ三ノ大ハ故其税ハ五百外ノ三トナ

得ナリ又輸出税ノ免除スル一何事

ナキト故何れも低率ノ即チ一

一ノ事ヲ探知スルニ石ノ免

外務省

明治四十一年五月廿五日 陸軍省 陸軍部

第一編

機密第二八號

石炭ニ對スル清國税金取調ノ件

東清鐵道續約第四條未段ニ関シ石炭ニ對スル清國地方税額取調方貴電第四四号ヲ以テ御訓令有之候ニ付拙電第四三号ヲ以テ及御回報候處更ニ詳細書面ニテ報告スル持御命令次第ニヨリ左ニ及御報告候

一 烟台炭坑ニ於テハ天利公司ニ對シテ賣炭百吊ニ付五分即百分五ノ課税ヲ為ス先年兼松磯熊採炭ノ時モ同様百分五ノ税金ヲ納付セリト云フ

在清國奉天日本總領事館

一 本溪湖駐長ノ報告ニ據ル該地ノ石炭モ亦百分五ノ税金ヲ納付ストノ事

一 老虎台ノ東方大鶯咀子ニ於ケル清國人ノ採炭ニ付テモ亦課税シ居ルノ事實ナリ但シ其税額ニ取調中

右ハ撫順松田炭坑長ノ取調報告ニ有之尚本溪湖地方ニ関シ大倉洋行ヲ以テ取調ケレ候結果モ亦前同様賣炭候格百吊五分ノ納税ヲ致シ候趣ニ有之候

但シ本溪湖ニ於テハ實際賣炭ノ噸五六四ナラ納税ニ関シテハ三四内外ノ見積リ其高低ハ清國税局吏ノ手ニ見由ニ有之候

電報ニハ百分五ノ課税ノ事其後ニ付テモ

49

第17号

機密 受第1260號

(1114001) 49

尚當地當業者ヲモテ礦務局ニ就テ取調

ハシメ候處ニ據シテ

一 出井税トシテハ前同様市價ニ對スル壹

百分、五ヲ納付セシメ

一 礦區税トシテハ一礦區即四十礦界(一礦

界ハ十畝ナリ)ニ對シ執照下附ノ際三十七年

ヲ一期トシテ壹百兩ヲ納税セシメ尚茲々年

ニ付四十礦界ニ付五十兩ノ税ヲ徴ス規

定ナリ

尚當地一ニ、清國石炭高ニ就テ取調候

處ニモ前同様ニ有之即賣炭價格

百分、五ノ納税ハ奉天全省ヲ通シテ清國

人ニ對シ實施セシ居ル模様ニ有之候但シ

在清國奉天

納税ニ對スル市價大モノハ實際賣價ハ多

ク懸隔アルハ各地同様ト被察候

右ノ報告候取具

明治四十一年五月十三日

左奉天

總領事加藤本四郎



外務大臣御書付 謹啟

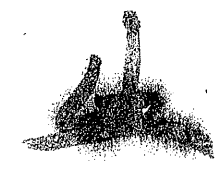
50

第12門

久松

賀友

明治 年 月 日
同 年 月 日
日 起 申
日 發 遣



主任



光

電送第 1537 號
明治41年 5月27日 午後 3時 發



林古也

本野太使

平五八 号

左ノ通譯者社裁ニ付ヨリ

撫政廣視者、視卒候旨ノ

外務省

付ニ關シ果キニ寄候ナル所アリ

ニ知見候カ及仕所事ヨリ接交

セル書面ニ添レシ

官長セル辨明卒ニハ電

報ノ懸アツタル

ニ付後付留下沙吻初ノ上更ニ洗

根徹スルコトシ信ホトク交出ニ當

見ホク更リ精テリ古ク信也

1-1809

0286

大臣 林 外務大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

露都卷 四一六、四一七、四一九
本者看 四一六、五前、五三〇

林 外務大臣

本野 大使

第 八 三 号

奉天ヨリ三十五ウオルスヲ隔テ、渾河ノ北岸ニ
在ル撫順炭坑ヲ採掘スルノ目ヨリ以テ組織
セラレ一九〇一年清國政府ヨリ特許ヲ得ル
清國ノ會社 *Manchurian Iron Works Co., Ltd.* ハ其株券約
三分ノ二ハ露清銀行ノ所有ニ係リ先日
後藤總裁ガ露清銀行理事ヲテロフ。語
リタル處ニ依レバ該炭坑ハ日本政府ノ財産
トシテ滿鉄會社ニ移轉セラレタルモノ、如シ

51

第 四 号

然ルニ近頃ノ情報ニ依ルニ前記清國會社
代表者 *Manchurian Iron Works Co., Ltd.* ナル者ハ該炭坑
取戻シ若クハ損害賠償ヲ得ンコトヲ日清
兩國政府ニ對シ求メツ、アルガ如シ就テハ日本
政府ニ於テ本件ヲ處分セラル、曉ニハ露清
銀行ガ之ニ關シ有ル利益ヲ考量セラレ度
且ツ此事ニ付テハ豫メ在東京露國大使館
ノ意見ヲ質サル、コトナクシテ清國會社ノ要
求ニ應ゼラル、如キコトナカラシコトヲ希望ス該
炭坑ヲ日本政府ノ所有ナリト決セラレタル理
論上ノ問題ハ暫ク措キ露國政府ハ日本

政府が露清銀行ニ與ヘテルベキ回答ヲ聞カン
トヲ欲スルニタト外務省ヨリ書面ヲ以テ申來
レリ本件ノ或行及御回答振電報アリタシ

1-1809

0288

大臣

52

第17門

明治 年 月 日
年 月 日
日 起 節
日 發 遣



政務局長

外 務 省

主任

水 野 龍 一

電送第一六六〇號
明治 年 月 日 後 一時 發

在 露 公 使
牙 六 二 号
外 務 省

岩 坑 王 承 貴 兼
セウノカネノトリテ 岩 坑 王 承 貴 兼

係アリシモノ

岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼

岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼

岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼

岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼

岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼
岩 坑 王 承 貴 兼

錢道ノ利益ノ為ニ控管セヨト云々
凡事定まり以テ常ニ其ノ行ハリテ
諸相委約及ヒ諸海ノ開カレテ
為ニ據リ定金ニ常ニ政府ノ有ニ
シタルト云々 總メ之ニ南洋諸島ノ
出資ノ一部ト為シタル事ハ
既ニ法政府ニモ之ヲ推シ
是附ニ其ノ請求ヲ推シ
外務省

南洋諸島ノ出資ノ一部ト為シタル事ハ

既ニ法政府ニモ之ヲ推シ
是附ニ其ノ請求ヲ推シ
外務省

モノナシトシテ思ハ居ルガ如クナリテ
口々^{ヨリ}其ノ如ク本^ノ御^ノ付^ニシ
信^ニツキテ^シ

外務省

第17門 19

明治
年 年
月 月
日 日
發 起
遣 申

接
昭
後

長
久

主任



電送第二六二號
明治41年6月17日午後6時發

東京
阿部代理

抄
本
立

第17門 第120号

本野来八三号及往六二号轉包

外務省

1-1809

0292

文書課長

文書課 校正印

明治四十一年六月二十六日 接受

別紙

明治四十一年六月廿二日 發遣

明治四十一年六月廿二日



政務局長 了

第一課



主件

北

第174

機密送第1號

機密

在法 阿部代理了使

栞本

梅原岩坑、一書、以、栞、本、者、也、

外務省

梅原岩坑、外、之、書、之、在、法、
切、理、分、使、有、別、決、之、通、是、年、
有、之、存、存、為、法、事、考、考、也、
乃、以、至、中、外、之、書、之、通、也、
此、中、通、也、
(在、法、之、栞、本、者、也、)

文書課長

浄書

明治四十一年六月二十六日

別紙

明治四十一年六月廿五日
同 日 起 申 出 村

主任

政務局長

第 八 月

機密送第 59 號

村 長

機密

大島岡至都府

撫順炭坑ニ関スル報告書送

付之件

外務省

撫順炭坑之件ニ関シ在露本野領使

コリ前線ニ通リ具申有之付為

御参考右写及御送付ハ御査

覽相成度此致申進也

(在露公使村密才ハ号写添)

1-1809

0294

Copie.

La Banque Russo-Chinoise avait acquis en 1902 un nombre considérable /deux tiers à peu près/ des actions de la Société Chinoise Houa-sing-li constituée pour l'exploitation des mines de charbon de Fouchoune /à 35 verstes de Moukden sur la rive gauche du Hun-ho/ et autorisée en 1901 par une concession du Gouvernement Chinois et a commencé dès lors en vertu de ses statuts à participer aux opérations de ladite Société.

La Société une fois constituée, on procéda à une installation du matériel nécessaire pour l'extraction du charbon et on commença l'exploitation qui dura jusqu'à l'occupation des mines par les troupes Impériales japonaises. Or, d'après les déclarations qui viennent d'être faites à Mr. Poutilow, Directeur de la Banque Russo-Chinoise, par Monsieur le Baron Goto auquel il avait demandé des renseignements à ce sujet, les mines en question étant considérées comme propriété de l'Etat auraient été transférées définitivement à la Compagnie du Chemin de fer Sud-Manchourien.

D'après les derniers renseignements le Représentants de la Société Houa-sing-li, le sujet chinois Van-tchen-yao, est en train de solliciter auprès des Gouvernements du Japon et de la Chine la restitution des dites mines ou une indemnisation pour les frais et pertes subies. Vu cette circonstance la Banque Russo-Chinoise s'est adressée au

à l'Ambassade du Japon.-

(2)

Ministère IMPERIAL des Affaires Etrangères - pour le cas où l'affaire de Fouchoune viendrait à être réglée - demandant que le Gouvernement Impérial Japonais veuille prendre en considération les intérêts engagés par ladite Banque dans l'entreprise. La Banque désirerait en outre qu'il ne soit pas donné suite aux réclamations de Van-tchen-yao sans avis préalable à l'Ambassade IMPERIAL de Russie à Tokio.

Sans entrer dans l'appréciation principale de cette question quant aux raisons invoquées par le Gouvernement Japonais pour motiver la prise de possession par lui des mines susmentionnées, le Ministère des Affaires Etrangères a l'honneur de prier l'Ambassade du Japon de bien vouloir le renseigner sur la réponse qui pourrait être donnée à la Banque susnommée.

St. Pétersbourg, le 20 Mai 1908.

甲子九月廿九日

三書政務 林

受第1546號

フアレンリル公司ノ豫定セシ其海州ニ於テ
石山ノ礦ヲ採ルニ宜キハ其務省ノ照會ナ

第17回

招喚奏請書

編者附言
石山ノ地ヲ採ルニ宜キハ其務省ノ照會ナ
右書在り望大ニ採ルニ宜キハ其務省ノ照會ナ

1-1809

0296

53.

第 17 門

明治 年 月 日
同 年 月 日
起 發 遣

次右

信

蓋

主任

水

林大忠

電送第 1905 號
明治 41 年 7 月 6 日 午後 3 時 發

北京 阿嘉代理

和 一 五 五 号

換領煙草山灰輸出税ヲ一ノリス

ニ定ムル付ニ付テハ半額ト事トシ

外務省

上申ニ基キ考査ヨリアレドシ、交

渉中ナル迄リ知右ニ聞スル旨日迄

成川 啓 長アリクシ

54

大臣 陸 尾 野 六 郎
No. 2403 晴

林 外 務 大 臣

阿 部 代 理 公 使

少 京 農 四 十 五 年 七 月 廿 五 日
七 月 廿 五 日 付 三 十 五 号

次 官
政 務
通 商
人 事
會 計
取 調

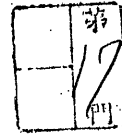
一 九 二 年 七 月 廿 五 日 第 一 五 五 号

シタルノ国民ノ最モ接順石炭輸出減税ノ
件ヲ接務所ニ伺ヒタルニ開平炭等ハ
特別ノ地位ニ在リモナルガ故以テカ例ヲ他ニ引
援スルヲ得ストノ答ヲ得タルニ依リ本件ニ
付テハ自カラ如河トモ致シ難シトゴトニ付
官ハ不情已公文ヲ以テ外務部ニ照會セシ

七 五

開平炭等ノ減税ハ特ニ上奏裁可ヲ經ル
モノナルガ故之ヲ延テ例ト為スヲ得ストノ回
答ニ接シタルヲ以テ更ニ青島輸出石炭
ノ例ヲ舉ゲテ其理由ヲ質問シ若シ上奏
裁可ノ必要アラバ滿洲炭ニ付テモ速ニ其
手續ヲ執行シ裁カ請求ヲ容シテタシト
七月二日照會ニ置ケリ

55



○伊藤院殿

明治 年 月 日
同 年 月 日
日 起 草
日 發 達

沙 州

林 圭 介

林 圭 介

蓋

林 圭 介

電話第 1924 號
明治 9 年 7 月 8 日 後 4 時 分 發

伊藤院殿
阿部代理

第一二〇号

電一九二号・同

本件交渉は之を容易とする目的

外務省

達スル所ハハル模範ナシ

非業ニシテ他ノ問題ト併セ

テ之ヲ解決シタキニ付當分在付

其儘ニナシ直カレタシ

明治四十一年七月二十日附録

警務局

第一

機密第七三

(機密付)

撫順炭輸出税率の關する件

清國海關税率に依りて清國産石炭、輸出税、
 二種に區別し、湖北等徵産西及用平炭、限、一噸、
 付一匁とし、其他ヲ三匁ト規定せし、就テ、撫順炭、之ト
 境邊及敗路ヲ同フセル用平炭、比、現時三倍ノ輸
 出税ヲ課セラシ居リ之ガ為、本邦商人、頗、困難ヲ感シ
 居、付、撫順炭、對シテ、用平炭等ト同様一噸一
 匁ノ税率ヲ適用スル様、其勸、交渉方、本年四月廿
 九日附、該機密第一九号ヲ以テ、在牛莊、高橋、奉
 務代理、林台使、宛、稟申、有之、候、同、九月、十三日、奉
 官、總稅務司代理、ブレンドン、商會、ニ、本件、付、交渉
 及、口、同、氏、稟、撫順炭輸出減税ノ件、ヲ、稅
 務處、同、ヒ、タ、コト、アリ、然、レ、同、處、ニ、テ、用平炭等、
 特別地位、在、ル、コト、ガ、故、之、カ、例、他、引、續、ス、リ、得
 不、ト、決定、シ、又、青嶋輸出炭、就、テ、現、*one ton*
one made、税率ヲ課セラシ居、ル、ガ、右、一、九、〇、五年
 外務部ト協定、結果、ニ、テ、其、条件、並、理由、等、同
 氏、不明、ト、知、有、之、結果、本件、就、テ、同、氏、於、テ、如
 何、ト、措置、シ、難、シ、ト、テ、有、之、候、依、テ、本官、不、得、已
 今月、廿、六日、公文、ヲ、以、テ、撫順炭、其、境、邊、並、敗
 路、於、テ、直、電、モ、用平炭、ト、異、ル、所、ナ、キ、ガ、故、之、對、シ、テ
 一、噸、一、匁、ノ、税率、ヲ、適用、セ、ル、様、致、度、旨、並、
 青嶋輸出石炭、現、凡、テ、右、左、様、税率、ヲ、適
 用、セ、シ、居、ル、趣、付、大連、管、口、等、ヲ、輸出、ス、ル、石炭、
 對、シ、テ、亦、同、一、待遇、ヲ、與、フ、コト、最、モ、公平、且、至、當、

在清國日本公使館

大長

66

第17門

機密 受第1687番

升平券ノ
モリヨクハ
他家異他
ニ何ナリ

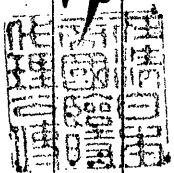
ノ義ト思考スルカ故達カ、我希望ヲ容レシ度
昔外務部ニ照會シ、六月廿五日同部ヲ現
行通商章程則ニ依ル玉煤、對シテ毎噸稅銀
三錢ヲ徵收スルコト、相成リ居リ同章程ノ土煤減
稅ニ專業奏准ノ條ニ依リ之ヲ以テ他ニ引續シテ
例トナシ得ル且ツ撫順炭坑ニ原上華商ノ同種
ニ係リ光緒三十年日本軍佔用以來未ダ交還セラ
レサシモノシテ其新出煤炭勿論稅則ニ據照シテ
納稅スマリ尙該炭坑ガ清國ニ交還セシキ件ニ就
テ、更ニ別案トシテ辦理スベキ旨回答ニ據シ候依テ
本官ニ該炭坑ガ清國ニ交還スベキ事ヲ石ヲ石トシ
ニ付テ口取早論カトシ必要ナシト爲シ之ヲ無視シテ夕
ツケスルコトヲ避ケ早ニ青島輸出ノ石炭カ一噸一錢
ノ特典ヲ享有スル理由ヲ質問スルコト同時ニ若シ本
件輸出減稅ニシテ特ニ專業トシテ上奏裁可ヲ經
ノ必要アリ義ニ有之候ハ滿洲炭、對シテモ速ニ其
手續ヲ執行シ我希望ヲ容レシタキ旨本月二日
更ニ公文ヲ以テ及照會遣候右ノ次第ニ取敢往
電第一九二号ヲ以テ大要申進遣候得共尙内
參事右左及詳報候致具

在清國日本公使館

明治四十年七月一日

在清國

臨時代理後阿部守右郎



外務大臣白壽林謹啟

七五五

第7門

五五

年八月十一日

外務省

機密第八五號

撫順其他滿洲炭輸出入税率、關之件

本件、關之當國政府、交渉、沿革、石炭税率、日付機密第七三三号、及員數、後、其後、本月二十日、我照會、對、單、撫順炭坑、之、約、照、之、清國、之、交還、セ、ル、其、煤、炭、付、之、新、ノ、用、年、青島、等、之、差、准、減、税、特、典、ヲ、援、引、ス、カ、ラ、ザ、ル、旨、外務部、ヲ、照、得、致、成、惟、向、本、官、之、重、テ、公、文、ヲ、以、テ、指、順、炭、坑、所、屬、同、題、之、関、之、既、ニ、定、年、五、月、十、日、附、第、三、三、三、号、之、通、告、(二十年五月十日)付機密才五、之、経、信、(之、照)ヲ、以、テ、帝、國、政、府、最、後、ノ、確、答、ヲ、通、告、シ、置、キ、タ、シ、日、前、早、其、主、張、ヲ、變、更、ス、ル、餘、地、ナ、ク、且、明、ニ、是、ノ、存、同、題、之、石、炭、輸、出、税、上、之、全、ク、別、案、ニ、屬、ス、ル、ガ、

在清國日本公使館

故、相、關、聯、シ、テ、論、セ、ル、ト、ス、之、様、注、意、ヲ、與、シ、且、又、大、連、等、ノ、地、位、之、青、島、ト、異、ニ、置、ク、可、ナ、キ、獨、リ、青、島、輸、出、之、石、炭、ニ、對、シ、テ、同、年、炭、上、同、様、特、殊、恩、典、ヲ、附、與、セ、ル、ハ、抑、モ、何、レ、大、理、由、ニ、基、キ、シ、テ、第、一、ニ、之、ヲ、實、行、シ、置、ク、カ、ル、ハ、今、日、全、部、ヲ、前、記、第、三、三、三、号、之、通、告、ニ、對、シ、テ、一、九、一、一、年、七、月、十、日、付、機、密、才、五、九、号、之、経、信、(之、照)ヲ、以、テ、既、ニ、切、實、ニ、取、扱、ス、ル、所、ナ、ラ、ズ、然、レ、モ、此、ニ、込、合、今、ニ、至、テ、尚、交、還、セ、ル、カ、ル、ト、ス、ル、ガ、却、テ、其、煤、炭、對、シ、テ、特、殊、減、税、ヲ、請、ハ、ル、ハ、甚、シ、ク、其、意、ヲ、了、解、シ、難、シ、ク、清、國、ノ、鐵、道、ニ、對、シ、テ、特、殊、減、税、セ、ル、カ、ル、ハ、皆、特、利、ノ、緣、因、ヲ、有、ル、ト、ス、ル、決、シ、テ、故、ナ、ク、然、レ、モ、亦、不、抑、モ、指、順、炭、坑、ノ、應、ニ、違、テ、マ、ク、シ、テ、未、ダ、還、セ、シ、カ、ル、ト、ス、ル、旨、之、兩、國、糾、葛、ヲ、清、ク、了、結、ス、ル、事、業、屬、ス、ル、從、

142

115

ツテ其輸生税ノ増減ニ能ハシムル理由ニ是レノ解曉
ニ易シク致シ得ル致シ得ル之ニ願フ所也
梯トシテ當國政府ニ於テハ容易ニ我ニ要求ヲ容認
スルヲ模倣見ルニ候就テハ先般貴電第一号ヲ
リテ予ニ示来訓ノ趣旨ニ從ヒ本邦ニ交際ニ差支
之ニ中止スルヲ致候同右様ニ知相成ク及此
股及員車候致矣

明治四十一年八月百

在清國

臨時代任公使阿部守右



臨時代任公使阿部守右

在清國日本公使館

橋本成茂

長

書

第17回

澤野市白蓮河多者地、名松田炭
 坑長、南宮池、知女者、多田宮、由木
 次、八浦、本社は、於岩行、絶、和島者
 送付、及、一、中、其、流、白、上、殿、
 時、日、リ、其、レ、ハ、行、列、者、ハ、有、松、田、博、士、
 其、奥、々、子、儀、及、此、送、付、一、極、吹、ノ、名、録、ハ
 平、中、建、武、ノ、事、ス、ル、一、是、レ、ニ、テ、以、テ、各、ノ、事
 事、一、如、事、主、人、同、信、頼、ハ、平、右、衛、尉、
 信、幸、而、會、汝、ハ、人、物、ハ、以、テ、一、事、細、ハ
 田、丸、者、白、ノ、流、一、事、送、付、及、一、事、
 中、建、武、ノ、事、
 ナリ、ニ、テ、之、事、
 其、事、不、同、事、ハ、上、也、
 其、事、不、同、事、ハ、上、也、

明治四十一年十月廿二日

旗幟附近地区ノ件

副總裁中村是公殿

旗幟附近地区ノ件

今朝波南周健龍未幼同人、長崎上海並東京、
只餘各、各奉夫、各地ニ在ル格和盤錫、主人ニシテ
轉國ニ在テ、東城、仁川、釜山、木浦、我生盤錫、名
ニテ營業致シル由同人、昨半以來、先角台ノ東方ニ



南滿洲鐵道株式會社

地区、出願シ今年迄可ヲ得アリ、ホク着存、早九七早
曉開地シ、各事、旗幟、地、同意ヲ得テ取計トシ、
差和リ、或種ヲ施シ、何處、旗幟、施行、政、兵、開、敷、ト
ノ、お、決、有、之、候、就、テ、此、區、面、後、等、實、開、付、在、事、案
ヲ、確、ノ、候

一、地区ノ、旗幟、ハ、新、補、地、西、テ、東、西、八、法、皇、南、北、法、皇
七、八、東、ノ、方、他、出、願、者、アリ、お、ノ、之、ヲ、降、キ、案、際、ハ
法、皇、ヨリ、少、ク、東、平、公、司、ノ、標、杭、ヲ、建、テ、レ、區、域、内、ナリ
他、東、平、公、司、ト、云、フ、モ、東、洋、ノ、東、ト、案、母、(日、本、人)、ノ
地、ノ、平、ヲ、取、リ、タル、モ、ノ、コ、テ、周、一、己、人、ノ、許、可、ヲ、得、タ
ル、モ、ナ、リ、ト、云、フ

一奉天官憲ニテハ遼東白以東ニ林快路地ニ屬スル興京
 縣ニ林快路ノ南界線ニ至ル迄ハ興京縣ノ屬スルニシテ
 右側ニ林快路ノ南界線トシテ人主ヲ出軌ノ上
 迄可ク渡ルコト云フ

同人ハ廣延俄深者實等ト懸念スル由ニカキ一人ト
 シテ訪可ク得タリト推定スルニ此等ノ邪推トシバ既ハ奉天ノ
 後負ト固案採用シテ人々名義人ニアラズヤトモ懸念スル
 極ヲ施レ居度ヲ見セト云ヒ不^レ米國^ノ行^クト云ヒ極^ニ重^ク
 鉄道ノ界線ヲ希望スルニ云ヒ懸念スルヲ伏トカシテ林快
 レタレト云ヒ諸國ノ目的ハ右方ノ意向ヲ探ル^ルアリト流^ル
 ラレ左ノ如ク答置キ



南滿洲鐵道株式會社

一お前ノ境界以內故若シ仕事ヲおスルハ差止ムベキヲ以テ
 武維。武維ミ行^クサル方向ノ右ノ待集ナリ萬一右
 手ニ付テ非常ノ雨則^テ破^スレテ此境界ノ強固ノ日
 清政府ニテ争^フ可^キナリニテ右方ノ案ニ貴局ト議合スル
 ノ必要ナクも貴局ガ懸念ト本^レ語サレタルコトヲ
 本社ニ懸念ス可^ク其武維ヲ施^スル^ルハ明^ニ示^スル^ルカバ決^シテ
 同意ス^ルニ能^ハスト答^ヘル^ルハ清政府ニテ懸念ス^ルカ
 ト。彼^レ可^キ然^リト答^ヘル^ルニ大島部會ニ面^シテ
 お前^ノ案^ヲアリテ中^ノ取^リ推^シテ後^ヲ引^キ取^リス
 打當^チキ^ル案^ヲ林快路可^クト云ヒ今又東平公司ノ請^キ可^キト
 云ヒ其^レ別^ノ案^ヲ請^キ可^キト云ヒ自^レ國^ノ林快路^ノ區域^トシテ處^分

致事ト在在甚速ニ存之九本ト在在先ノ区域ニ
付テ不明瞭ナル点アリテ日清兩政府ニ於テ速カニ事快確
定ノ必要アルハ昨年以來屢々申上レ知有之雖是レニ後
ハ漸次口懸ハ復難トナリ之ガ解決ニ困難ヲ生ス可ク或ハ
廣岡等米國ニ於テ漢中家ト結合セリトモ限セズ甚
心配任ノ難クハ其情事口懸ハ付テハ留意セズ成リ
可始メ方針表成ハ政府表意候



南滿洲鐵道株式會社

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a report or document. The text is mostly illegible due to fading and the quality of the scan. Some characters are visible, such as '南滿洲鐵道株式會社' and '致事'.

1-1809

0307